

SgH

**SGホールディングスグループ
環境・社会報告書**

SUSTAINABILITY REPORT 2006

佐川急便グループは3月21日、SGホールディングスグループに生まれ変わりました。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

SGホールディングス社章



■ Blue[ブルー]

地球、自然を感じさせるとともに、現代性も伝えています。

■ Silver[シルバー]

現代の象徴の色として位置づけています。
また、信頼性という意味も込めています。

□ White[ホワイト]

秩序や清潔さを表しています。
また、自然と人工物の間のクッションという役割を意味しています。

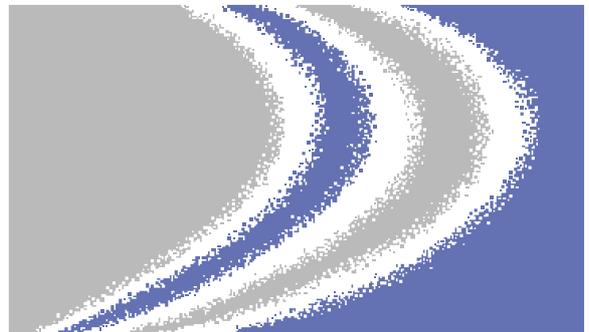
- 「スピード感、信頼感、メジャー感」の獲得を目指しています。
- 現在の佐川急便のイメージデザインであるギャラクシーデザインを「g」に配し、3つのアルファベットの組み合わせを個性あるものにしました。

SgHの文字について

S = SAGAWA
g = SAGAWA
GLOBAL
GALAXY
GROUP
H = HOLDINGS

ギャラクシーデザイン

佐川急便では、コーポレートカラーであるブルーを基調に銀河（ギャラクシー）を表現したデザインを集配トラックや鉄道コンテナ（スーパーレールカーゴ）、各種梱包材等に採用しています。夜空に架かる雄大な銀河のように、人と人、そして人と社会とをつなぐ架け橋でありたいという思いを込めています。



■ 基本コンセプト

【銀河ロード＝ミルクィウェイ】

— アース・コンシャスと先進性 —

つねに流動する環境のなかでいつも顧客第一に先駆ける
21世紀のSGホールディングス。

— 地球・社会・経済 —

— 現場第一 —

表紙デザインについて

SGホールディングスの社章を中心に据え、放射線状に各事業会社の業容やステークホルダーを想起させるイラストをレイアウトしました。グループとして、さまざまな分野への業容の広がりや結束力を表現しています。



目次

SGホールディングス社章
ギャラクシーデザイン
表紙デザインについて
会社概要
2 ごあいさつ
グループ概要
4 SGホールディングスの誕生
5 SGホールディングスグループ国内事業体制
6 佐川急便全国輸送ネットワーク
7 佐川急便事業データ
8 アジアでの事業展開
10 SGホールディングスグループの企業理念
12 SGホールディングスグループのCSR体制
安全活動報告
14 交通安全への取り組み～安全はすべてに優先する～
21 地域社会への貢献に評価
22 子どもたちの安全を守る活動
環境活動報告
24 佐川急便と環境のかかわり
26 環境マネジメントシステム
28 環境会計
29 SGホールディングスグループ環境行動
30 環境啓蒙活動
32 環境パートナーシップ
33 環境アンケート
34 地球温暖化防止・大気汚染防止への取り組み
38 車両に関する環境配慮
39 施設における環境配慮
40 循環型社会における総合物流企業の役割
41 その他の環境配慮
社会活動報告
42 人の尊重と人材の活用
44 働きやすい職場づくり
46 サービス向上への取り組み
48 社会貢献活動
50 ステークホルダー・ダイアログ ～市場におけるグリーン物流の実現に向けて～
52 5つの財団活動
53 2005年度のあしあと
54 佐川急便2005年度各地の取り組み 第三者保証報告書 第三者意見 編集後記

編集方針

1. 多くのステークホルダーにお読みいただけるよう、解りやすい表現を心掛け、簡潔、明瞭に説明しています。
2. 環境省の「環境報告書ガイドライン2003年度版」を参考にしています。
3. 実績データは2005年度のものを集計しています。
(活動内容については一部2006年度の内容も含みます)
4. 取り組みの状況により、年間実績数値で報告できないものは、対象期間を明示しています。
5. 原則として2005年に実施したものについては、西暦は表記せず、2005年以外に実施したものについては表記しています。
6. 外部審査機関による第三者保証を受けています。
7. 外部の第三者よりこの報告書に対するご意見をいただきます。

報告範囲

佐川急便グループは2006年3月21日に、SGホールディングスを持株会社として組織を再編成致しました。この報告書では、2005年度(2005年3月21日～2006年3月20日)におけるグループの主たる事業会社である佐川急便の活動実績を中心に掲載しております。今後は、報告対象範囲をSGホールディングスグループ全体とする考えのもと、範囲の拡大に努めてまいります。

会社概要

商号	SGホールディングス株式会社 (SG HOLDINGS CO., LTD.)	所在地	京都市南区上鳥羽角田町68番地
設立日	2006年(平成18年)3月21日	代表取締役会長兼社長	栗和田 榮一
事業内容	グループ経営戦略策定・管理並びに それらに付帯する事業	資本金	112億7,500万円
		決算期	3月20日



豊かな社会の実現に向けて私たちが果たすべき役割

新たなグループ経営体制

佐川急便株式会社は、2006年3月21日より純粋持株会社として、SGホールディングス株式会社を設立し、新たなグループ経営体制をスタートいたしました。これは、グループ全体の「経営戦略の策定・管理機能」を集約することにより、佐川急便を筆頭とするグループ各社が「業務執行機能」に特化して、日々変化するお客様のニーズに対応できるよう、意思決定スピードを高め、より高いレベルを目指すことがその目的です。この新たな経営体制の構築によって、お客様のニーズの変化、及び市場環境の変化に速やかに対応し、宅配便事業領域以外の拡大も視野に入れながら新たな成長を図り、社会にとって今以上に必要とされる企業体を目指してまいります。

昨年私たちは、佐川フィナンシャル(e-コレクトを含む金融事業)、ギャラクシーエアラインズ(航空貨物輸送事業)等の新会社を設立する一方、佐川ギャラクシーハイウェイ(幹線路線事業)、佐川ギャラクシーモーターズ(車両関係事業)、佐川グローバルエクスプレス(国際貨物・国内航空便事業)等のグループ企業の再編を実施いたしました。これは、経営ビジョンに掲げた“すべての人々に『選ばれる』、SGホールディングスグループでありたい～アジアNo1総合物流企業を目指して～”を実現するためであり、グループ全社員が一丸となって取り組んでいる目標であります。

企業の社会的責任を果たすために

近年、CSR(企業の社会的責任)という言葉をよく聞きます。それではCSRとはどのような事なのでしょうか。これは一概に定義があるわけではなく、それぞれの企業がどう考え、どう取り組むのかという事になると思います。

SGホールディングスグループの核である「佐川急便」は総合物流企業であることから、車両を多く使用しております。その責任として、「安全はすべてに優先する」この言葉を合言葉に取り組んできた活動は、深くドライバーに根付き、大きな成果が得られていると感じております。また、1997年には「佐川急便エコプロジェクト推進委員会」を発足させ、地球環境保全活動にも積極的に取り組んでまいりました。

このように企業の活動は、CSR活動として、企業が果たさなければならない責任であると同時に、社会から受けた恩恵を還元する行動でもあります。私たちは、今年1月に従来の「エコプロジェクト推進委員会」を改称し、新たに「SGホールディングスグループCSR委員会」として活動を開始いたしました。これにより、戦略的CSR体制の構築とグループ全体活動の見直しを行い、本業に沿ったCSR活動を展開したいと考えております。

地球の未来を守るため 今、わたしたちにできること

京都議定書が発効し一年が経過いたしました。わが国は2008年～2012年の5年間に、CO₂の排出量を年平均で1990年と比較し、6%の削減を達成させなければなりません。しかしながら、昨年までの結果を見ますと、すでに目標達成が危うい状況であると言われており、かけがえのない地球に対し、これまで以上の環境保全活動を行わなければならないと感じております。

佐川急便では、これまでにさまざまな環境保全活動を行ってまいりました。天然ガス自動車の大量導入、アイドリングストップの徹底、モーダルシフトの推進などは現在も継続中であり、物理的な環境保全活動への基盤は整いつつあると感じております。

では、今後私たちにできることは何でしょう…。「地球の未来を守る」すなわち、次世代を担うことになる現在の子どもたちへの教育に他なりません。私たちを含め、先人たちが行った地球環境破壊の歴史を認識し、ありのままに語り継がれ、同じ過ちを繰り返すことのないように受け継がれる仕組みづくりをすることが重要であると考えております。また、企業の責任として、従業員への環境啓蒙活動はもちろんのこと、その活動が家庭で広がり、地域で広がり、国境を越えて地球全体に広がるような、そんなきっかけになればと願っております。

私たち人類は、豊かさを求めた結果、環境破壊という大きな犠牲を払ってしまいました。「豊かさ」とは何なのか。金銭的な豊かさ。生活における便利さ。心のゆとり。健康な身体。人それぞれ感じる豊かさは異なります。私たちは、すべての人々が豊かさを実感できる社会を築いていかなければなりません。

SGホールディングスグループは、豊かな社会の実現に向けて、経済・社会・環境それぞれの側面に有益で、ステークホルダーの要望をも満たせるサービスを追求してまいります。そのためには私たちを取り巻く環境が刻々と変化すると同様に、私たちもどんどん姿を変えていきたいと思っております。地球上のあらゆるものと共生し、輝ける未来に向かって共に歩んでいきたいと願っております。

2006年6月

SGホールディングス株式会社 代表取締役会長兼社長

栗和田 榮一

SGホールディングスの誕生

佐川急便グループは、2006年3月21日より純粋持株会社としてSGホールディングス株式会社を設立し、新たなグループ経営体制をスタートしました。

純粋持株会社設立の目的

社会から必要とされる企業、すべての人々に選ばれる企業になる目標に向かって、新たな経営体制を構築しました。

これにより、

- ①お客様のニーズの変化、及び市場環境の変化に速やかに対応
- ②宅配便事業領域以外の拡大も視野に入れた新たな成長戦略を策定
- ③伸ばすべき事業領域には、グループ横断的な戦略的投資が行える企業グループへの変革を実行していきます。

グループ総合力の強化

純粋持株会社への移行に先駆けて、グループ内機能を見直し、グループの総合力を最大限に発揮するために、新たな事業会社の設立と再編に取り組みました。

アジアNo.1を目指す総合物流企業として、磐石な事業基盤は必要不可欠であり、日本国内はもとより、アジア圏におけるネットワークの強化に努めてまいります。

SGホールディングスグループ体制図



SGホールディングスグループ国内事業体制

佐川急便をはじめとする国内各グループ会社の事業体制によって、お客様に安心と信頼をお届けします。

佐川急便株式会社

国内ネットワークによる充実した輸送サービスを提供すると同時に、天然ガス自動車の大量導入などグリーン物流に取り組んでいます。



佐川引越センター株式会社

個人や会社の引越輸送事業、飛脚クール便や精密機器輸送などの貸切輸送事業、美術品輸送事業など高度な輸送技術で、お客様の大切な荷物をお届けします。



佐川フィナンシャル株式会社

2005年3月に設立した物流決済事業及びファイナンスサービスの提供など、ファイナンス関連の事業を行います。主に佐川急便のe-コレクトサービスの決済業務で、年間約8,800億円(2005年実績)の決済を取り扱っています。

佐川ギャラクシーモーターズ株式会社

佐川急便の集配車両のボディー製造を担う佐川車体株式会社と、車両整備を担う佐川自動車工業株式会社を統合し、グループ内の営業車両に関わる全ての機能を集約することでトータルカービジネス企業として2005年9月に合併しました。



佐川ギャラクシーハイウェイズ株式会社

佐川急便が集配業務を担うのに対し、幹線輸送を担当するのが佐川ギャラクシーハイウェイズ株式会社です。従来の幹線輸送は、東日本運輸興業、ヒッツエクスプレス、首都圏運輸、佐川ロジテック大阪、近畿自動車運送の各グループ会社が分担していましたが、2005年9月に統合し、管理体制の一元化および輸送コストの最適化を図りました。



その他グループ会社

佐川通関株式会社
ロジスティクス・クオリティー・レジスター・インク
佐川林業株式会社

佐川グローバルロジスティクス株式会社

倉庫スペースの提供からアウトソーシング運営(在庫管理・ピッキング・梱包・出荷など)までお客様の物流業務をトータルにサポートします。2006年6月に佐川物流サービス株式会社より商号変更しました。



佐川グローバルエクスプレス株式会社

国際貨物の取り扱い及び通関業務と、国内航空貨物を取り扱い、アジアにおける国際宅配便サービスの実現を目指しています。2005年7月に佐川航空株式会社より商号変更しました。



ギャラクシーエアラインズ株式会社

2005年5月に設立した航空運送事業会社です。貨物専用の航空機を用いて国内線主要幹線(新千歳・羽田・新北九州・那覇)を軸に全国を結ぶ航空貨物輸送サービスを提供します。



佐川アドバンス株式会社

旅行、保険、商品販売、店舗開発、施設管理、ISO支援、人材支援に関する幅広い事業領域により、お客様を強力にサポートします。2006年6月に佐川サポートサービス株式会社より商号変更しました。



佐川コンピューター・システム株式会社

SGホールディングスグループの情報システム機能を担い、システムのコンサルティング、開発、運用管理を行っています。高い技術力と蓄積したノウハウで、お客様の業務改善をITによって実現します。

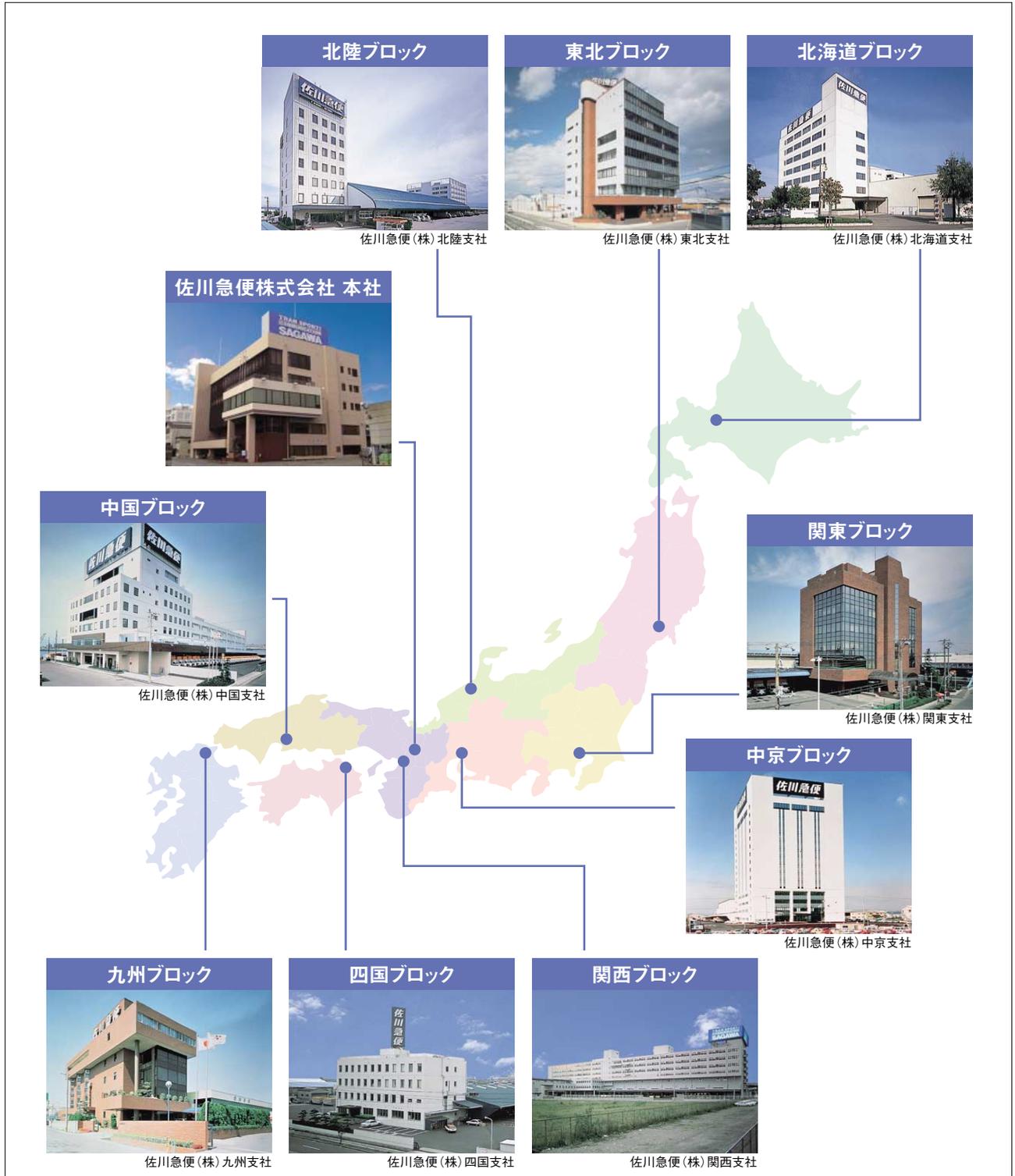


財団法人

財団法人佐川留学生奨学会
財団法人佐川がん研究助成振興財団
財団法人佐川国際経済協力会
財団法人佐川美術館

佐川急便 全国輸送ネットワーク

グループ内で最大規模の事業会社である佐川急便は、全国を9つのブロックに分割し、安定した輸送ネットワークで安心と信頼をお届けします。



佐川急便事業データ

■売上高



■社員数



■経常利益



■車両台数



■宅配便取扱個数



■営業店数



※2002年度から2005年度における佐川急便株式会社の各種実績を掲載しています。
 ※社員数、車両台数、営業店数については、3月20日時点の数値を年度実績として掲載しています。

アジアでの事業展開

今後ますます経済発展が予想されるアジア地域において、SGホールディングスグループはアジアNo.1の総合物流企業を目指し、事業展開をしています。



アジア地域の現状

現在、65億人を超える人々が地球上で暮しており、そのうち約60%がアジアに住んでいると言われています。中でも、日本と近接する東アジア諸国は、近年目覚ましい成長を遂げており、特に中国では2008年の北京オリンピックや、2010年の上海万博などを控え、特需が期待されるなど著しい経済成長を見せています。

しかしその反面、アジアは広大な土地を有することから、気候や習慣、文化が多種多様であるため、民族・宗教間の対立、南北問題、テロ・紛争問題など発展を妨げる要素を

数多く抱える地域でもあり、海外での事業展開を目指す企業にとって課題多き市場であることも事実です。

そのような背景の中、東アジア諸国では今、経済資源(人・モノ・金・情報)の移動が活発になってきており、それを支える物流市場のインフラ整備が求められています。

「国内での信頼関係をそのままに、新天地であるアジアにおいても佐川急便に物流をお願いしたい」というアジア展開を進める日本企業からのご要望にお応えすると同時に、顧客ニーズと将来の物流スタイルの変化にいち早く対応すべく、アジア地域の活性化に向けて事業展開を推進していきます。

2005年度設立の海外法人

佐川急便インドネシア株式会社

アセアン地域を中心に、国際フォワーディングを軸とした物流サービスを提供します。

会社概要

(英 文 : PT.Sagawa Express Indonesia)

所 在 地 : インドネシア・ジャカルタ

資 本 金 : 750,000 USD

従 業 員 : 25名

営業開始日 : 2005年6月



台湾佐川急便国際股份有限公司

東アジア域内の国際物流需要に応えるため、主に国際フォワーディング事業を行います。

会社概要

(英 文 : Sagawa Express International Taiwan Corporation)

所 在 地 : 台湾・台北市

資 本 金 : 50,000,000 NTD

従 業 員 : 44名

営業開始日 : 2005年9月



その他の海外法人

- 佐川急便アジア株式会社
- 北京住商佐川急便物流有限公司
- 天津保利佐川国際貿易有限公司
- 上海保利佐川物流有限公司
- 上海大衆佐川急便物流有限公司
- 保利佐川物流有限公司
- 佐川急便(香港)有限公司
- 佐川急便フィリピン株式会社
- 佐川急便ベトナム
- 佐川急便コリア株式会社
- 佐川急便シンガポール株式会社
- 佐川急便タイ・コンテナ・ディストリビューション・サービス株式会社
- 佐川急便ハワイ株式会社



佐川急便タイ・コンテナ・ディストリビューション・サービス株式会社



北京住商佐川急便物流有限公司

SGホールディングスグループの企業理念

SGホールディングスグループ全従業員は、良き企業市民として創業の理念に基づき、良識と責任を持って行動しています。

創業の理念

SGホールディングスグループは、佐川急便の創業の原点である「飛脚の精神(こころ)」を継承し、人権を尊重し法令および、その精神を遵守するとともに公正且つ自由な企業活動を行います。

「飛脚の精神(こころ)」とは「迅速・確実・丁寧」をモットーに、

- 一、顧客第一主義に徹する
- 一、地域社会の発展に奉仕する
- 一、責任と誠意を使命とする

SGホールディングス行動憲章

～社会の信頼と共感を得るために～

責任規定

経営者は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し率先垂範の上、グループ企業をはじめとする関係者に周知徹底させ、実効のある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。また、本憲章に反する事態が発生したときには、自らが問題解決にあたる姿勢を内外に表明し、原因究明、再発防止に努めます。

SGホールディングスグループの全ての経営者および、社員は、いかなるときでも一致団結して次の原則を実践するために、責任をもって行動します。



行動原則

1. 社会的に有用なサービス・製品を安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分配慮して開発、提供し消費者・顧客の満足と信頼を獲得する。
2. 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保つ。
3. 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
4. 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動する。
5. 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
6. 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現する。
7. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決する。
8. 国際的な事業活動においては、国際ルールやその国の法律の遵守はもとより、文化や慣習を尊重しその地域の発展に貢献する経営を行う。

SGホールディングスグループ統一スローガン

安全 環境 そしてサービス

すべての品質を世界標準へ。

経営ビジョン

すべての人々に『選ばれる』、
SGホールディングスグループでありたい
～アジアNo.1総合物流企業を目指して～

中期経営計画

「真価創生3カ年計画」(2004年3月21日～2007年3月20日)

中期経営計画は、社会の要求、お客様のニーズ、ならびに市場動向を見据え、すべての消費者から選ばれるために『今後3カ年で何をなすべきか』という観点で策定したものです。2005年度はその2年目に当たりました。

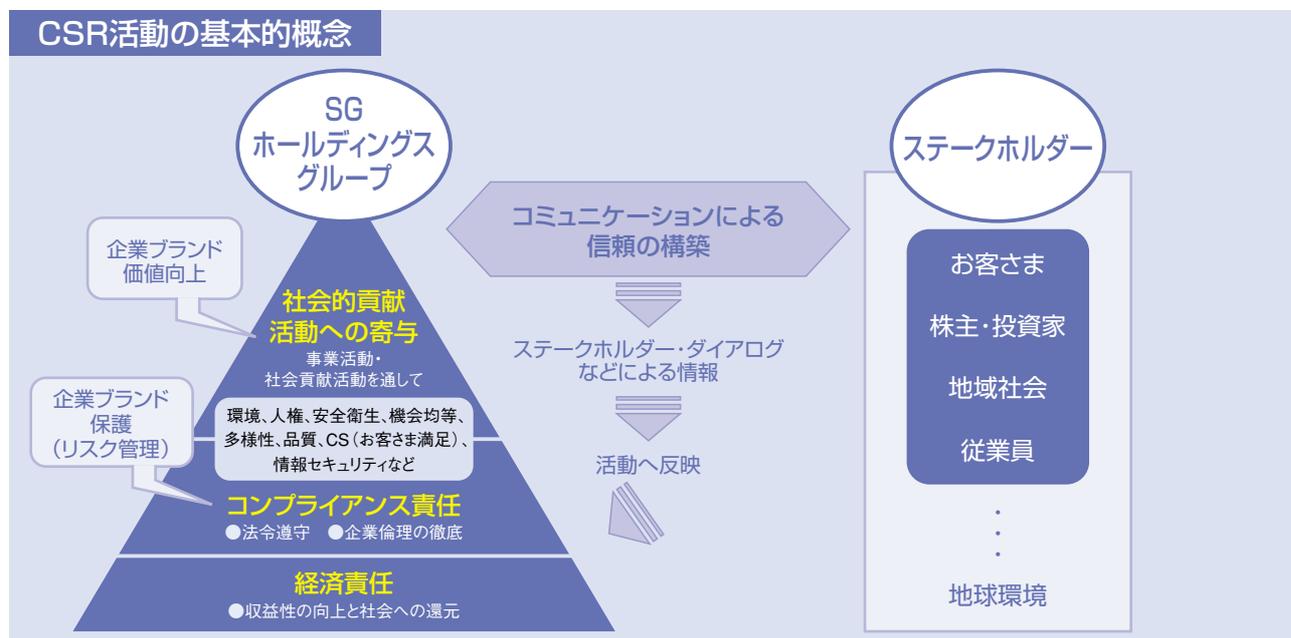
■「真の価値」を創生し、未来永劫に発展し続ける磐石な基盤を構築する

- 1.コンプライアンス経営を推進し、社会の要求に応えること。
- 2.強固な事業運営基盤を構築し、お客様との約束を守ること。
- 3.コーポレートブランドを確立し、すべての人々から選ばれる企業になると同時に、社員が誇りを持っていきいきと働ける企業になること。



SGホールディングスグループのCSR体制

「豊かな社会」の創造を目指し、社会・ステークホルダーから求められるさまざまな要望に応えられる体制を整備しています。

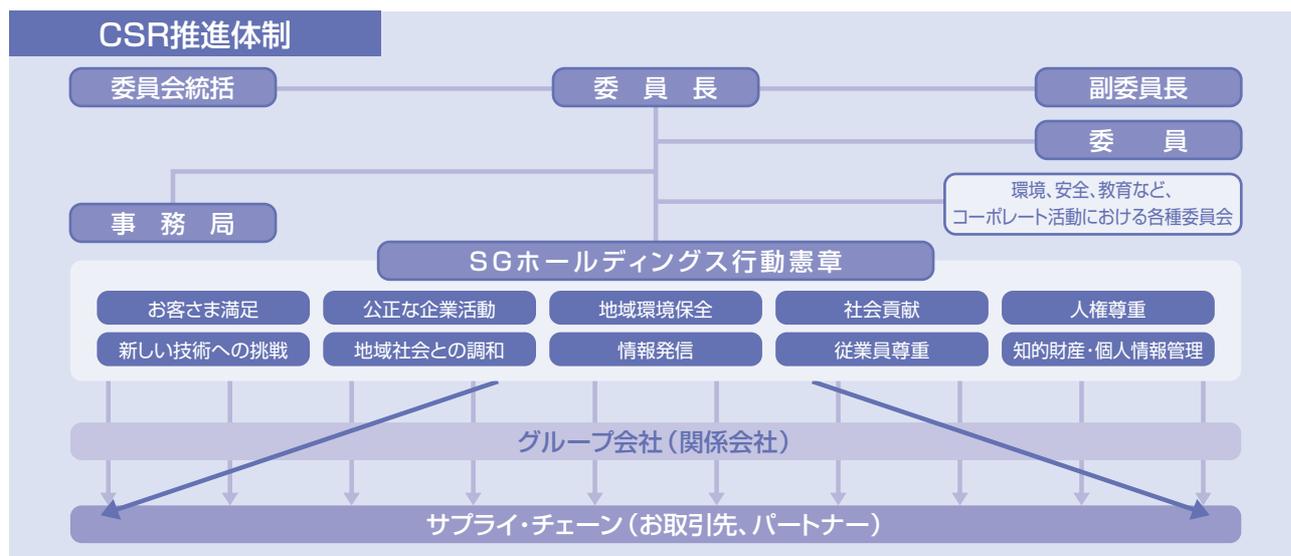


総合物流企業も営む当グループは、企業の責任として早くから安全に対する取り組みをはじめ、現在においても最優先の取り組みであると捉えて活動しています。

また、同じく企業の責任として極めて重要だと認識しているのが環境への取り組みです。事業を営むことによって直接的に環境へ影響を与えてしまう物流事業者は、より積極的に環境活動に取り組まなければならないと考えています。

これらの活動を更に充実した活動にするため、ステークホルダーと対話することにより、経済・社会・環境、どの側面からも評価される企業体制の構築を目指しています。

ステークホルダーの声を経営に反映し、深い信頼関係を築くことで、すべての人々から選ばれる企業になることが私たちの目標です。



佐川急便では、従来より環境・社会活動に取り組んできましたが、世界的に高まるCSR推進への気運を背景に、1997年に発足した「エコプロジェクト推進委員会」を改称し、「CSR委員会」として活動を開始しました。

独自に行ってきたさまざまな活動が、本当に社会から求められ

る活動なのかを整理し、見直しを行うことによって、本業に沿った形でのCSR活動を展開していきます。

CSR委員会は、役員により構成された委員によって討議を行い、CSR活動の方針を決定します。全従業員は行動憲章および活動方針を遵守した行動を実践します。

危機管理体制

大規模災害や、その他企業経営、事業活動または企業イメージに重大な損失をもたらす、もしくは社会一般に重大な影響を及ぼすと予想される事態の未然防止や、被害の最小化および対策の継続的な改善を図る体制を整えています。

平常時には危機管理推進組織として「危機管理推進委員会」を設置しており、危機が発生したときは、直ちに対策本部設置判定会議を経て、必要に応じて対策本部を設置します。

また、自然災害発生時には対策本部設置判定会議を省略して対策本部を設置することが可能で、速やかな対策を講じることができます。

コンプライアンス経営

消費者をはじめとするさまざまなステークホルダーとの関係において、守られるべき企業倫理や行動規範などを含むルールを遵守した経営「コンプライアンス経営」が注目されています。

当グループもコンプライアンス経営の強化を目的に、人事所管部署に通報の受付窓口を設置しています。

通報は専用電話、専用FAX、専用メールアドレス、書面で受け付けており、通報者保護の観点から通報者および調査に協力した者が不利益な扱いを受けることのないよう、内部通報者保護規程を定めています。



個人情報保護Webサイト

情報セキュリティ・個人情報保護

私たちは業務上、営業活動上の重要な情報、財務や経理の情報などのほかに、個人情報が入った荷物やデータなどお客様の大切な情報を扱っています。従業員は情報資産を扱う上で、その重要性を認識しなければなりません。

そのため、取り扱う情報資産に関する管理について定め、故意や偶然という区別に関係なく、情報資産を改ざん、破壊、漏洩等から保護することを目的として情報セキュリティ規程を設けています。

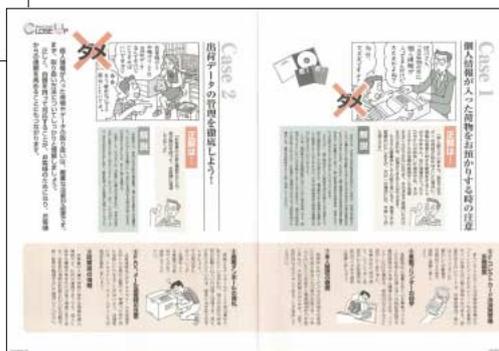
また、佐川急便では全社的な情報セキュリティマネジメントを推進する組織として「情報セキュリティ委員会」を設置しています。この情報セキュリティ委員会が中心となり、情報セキュリティに関する継続的な社内教育の実施、従業員の意識向上と技術向上に努めており、今後もお客様から信頼され安心いただける輸送サービスの提供に努めていきます。

佐川急便が取り扱う個人情報

主に佐川急便営業店での業務に関係する個人情報には以下のようなものがあります。

- 送り状に記載された個人のお客様の情報
- 再発行伝票や仮伝票に記載された個人のお名前や住所
- e-コレクトカード決済携帯端末機帳票
- 車載プリンターで印字された個人宅への再配達指示や集荷情報
- 廃棄ダンボールの荷札
- 従業員の情報

個人情報保護規程を基に個人情報保護方針を策定し、この内容をホームページで公開しています。また、社内報「飛脚」に個人情報の保護に関する特集を組み、従業員の意識向上と個人情報保護法の周知徹底を図っています。



社内報「飛脚」

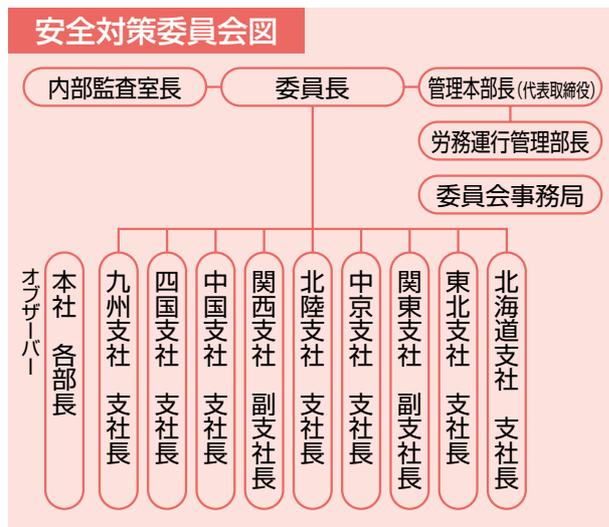
交通安全への取り組み～安全はすべてに優先する～

総合物流企業も営むSGホールディングスグループにとって交通安全への取り組みは、すべてに優先するテーマです。安全な社会の創造を目標に、交通事故ゼロを目指した活動を展開しています。

安全管理体制

佐川急便では、全国を9ブロックに分けた各ブロックの執行責任者（執行役員）である支社長及び副支社長を委員とした「安全対策委員会」を組織しています。これは交通事故防止を目的に、さまざまな課題について、現状の安全推進活動状況や事故・違反の発生状況を認識した上で、トップ自らが討議を行うものです。

各ブロックの安全推進責任者による検討会を定期的を実施することにより、現場の意見を反映したさまざまな安全施策が討議され、全国統一した安全ルールや事故防止対策が考案されています。



また、すべての営業店には、「安全推進職」を配置し、日々の安全運行活動を行っています。

具体的には、運行管理業務をシステム運用しており、安全指導等の記録だけでなく、日々の点呼業務においてもPCを用いた電子点呼を実施しています。これにより、作業効率が向上するとともに、より確実な対面点呼を併用することで、管理面の精度向上に努めています。



対面点呼の様子



電子点呼用PC

安全管理計画

車両事故の未然防止と安全戦略目標（事故・違反に対する抑止目標）の達成を目的として、「輸送安全対策年間計画表」を佐川急便本社にて作成し、月々の対策を推進しています。

一方で安全意識を高めるためのツールとして社内報「飛脚」や社内報ビデオ「ふれあい」等、ビジュアルを主体とした、解りやすい安全教育を定期的に発信しています。



社内報「飛脚」

また、四半期毎の重点安全対策項目については、全事業所に啓蒙ポスターを掲示するなど従業員全体の安全意識向上に努めています。



四半期毎の重点安全対策ポスター

その他にも佐川急便独自の安全ルール「安全運転徹底7項目」や運転中の携帯電話使用禁止とする※「7RING RULE」（セブンリングルール）についても指導と検証を繰り返し実施しています。

また現在、事故防止に最も効果があるとされている添乗指導については、添乗定義（期間・回数・対象者）を定め、計画に基づいた安全指導を推進しています。

※携帯電話へのシール貼付と、着信を配慮して発信者側のコールを7回までとするルール



「7RING RULE」シール

安全に係わる※表彰制度を設け、個人・営業店単位と対象者別に表彰を行うことで、安全に対するモチベーションを向上させています。

また、年末・年始には、全従業員を対象とした「班対抗 無事故・無違反運動」を実施し、達成者には記念品を贈呈しています。

※安全優秀店表彰、連続無事故表彰、年間無事故表彰（営業店対象）
無事故無違反表彰（ドライバー個人対象）

ドライバーコンテストを開催

「交通法規の厳守、運転・点検技術の向上を図り、交通安全への意識を高め交通事故を防止すること」を目的として、佐川急便全国ドライバーコンテストを1993年より毎年開催しています。

総合優勝、団体優勝、各部門優勝(2t、4t、11t、女性)を目指して、全国から集まった出場者たちが学科競技・運転競技・点検競技に挑みます。(2006年度より軽部門を新設)

第13回となる2005年度は、「社内の全国大会に出場経験のない者」を参加資格条件とし、底辺の拡大を図り、より多くのドライバーの安全意識の向上を推進しました。

また、10月には(社)全日本トラック協会主催による「第37回全国トラックドライバー・コンテスト」で、佐川急便からの出場選手が総合優勝にあたる内閣総理大臣賞と、総合2位にあたる内閣官房長官賞を獲得し、2年連続のW受賞となりました。さらに、2t部門では佐川急便が1位から5位までを占める好成績をあげ、



女性部門においても優勝にあたる警察庁長官賞を受賞し、SGホールディングスグループより出場した53名のうち13名が入賞を果たしています。

■全国トラックドライバー・コンテスト入賞者一覧

部門	順位	氏名	店名	代表地区名	合計得点	備考
2ト	1	森 直樹	東京店	東京都	990	内閣官房長官賞 警察庁長官賞
	2	高橋 淳	高知店	高知県	988	
	3	関 哲史	明石店	兵庫県	988	
	4	鈴木 幸男	本荘店	秋田県	983	
	5	慶徳 明	古河店	茨城県	980	
4ト	1	堀 琢磨	仙台店	宮城県	995	内閣総理大臣賞 警察庁長官賞
	2	田原 佳三	広島店	広島県	985	
	5	渡部 明春	平塚店	神奈川県	975	
トローラ	3	吉村 忠	佐川キヤノンハイウェイ三郷営業所	埼玉県	953	
女性	1	宇野 杏子	城北店	東京都	973	警察庁長官賞
	2	西尾 なおみ	岐阜店	岐阜県	953	
	4	小山 ちひろ	札幌店	北海道	933	
	5	山口 千佳	さいたま店	埼玉県	930	

安全運転への強い意識



東北支社 仙台店
堀 琢磨
(現 東北支社安全推進課)

この大会を通じて、努力することの素晴らしさ、大切さを改めて実感することができました。このことを、これから自店のみんなに伝えていきたいと思っています。そして、「絶対に事故を起こさない」という強い意識を持ち続けていきたいと思っています。

佐川ライセンスの導入

事故ゼロを目指して独自の社内資格「佐川ライセンス」を導入しています。

このライセンスは、指導者としての要件を満たす者の中から試験に合格した者に対して「指導員としての認定」を行うものです。ライセンスには「SD(セールスドライバー)指導員」と「安全運転検定員」があり、新任ドライバー～現職ドライバーに対して、現場での指導・教育にあたります。



「SD指導員」ライセンス証

「SD指導員」は、新入社員に対するマンツーマン指導およびひとり立ちまでの添乗指導を実施し、その後も運転面や営業面などについて1年間フォローする役割を担います。

「安全運転検定員」は、安全運転および的確な安全確認や運転マナー、防衛運転の励行状況を確認し、単独乗務検定や継続乗務検定などさまざまな検定を行い、可否の決定を行います。



「安全運転検定員」ライセンス証

この「佐川ライセンス」の導入により、全国統一された教育で安全運転に対する標準化を徹底しています。

■新人ドライバーに対する教育フロー



(SD=セールスドライバー)

エコ安全ドライブ(省燃費運転)の推進

佐川急便では、交通事故の撲滅に向けて、ドライバー一人ひとりの安全意識を高め、急加速や急発進・急停止を発生させない滑らかなやさしい運転を心掛けることで、安全性の追求、環境にやさしい運転による環境保護、資源保護、コスト低減など、「安全」「環境」「経営」にさまざまな効果が期待される『エコ安全ドライブ』の推進を行っています。

エコ安全ドライブ推進のポイント

- ① 知識と技術を身に付けた指導員の育成
- ② ドライバーの現行の運転イメージの変更
- ③ 検証を行うためのツール

エコ安全ドライブ推進のためには、知識と技術を身に付けた指導員の育成が重要であり、2005年度よりエコ安全ドライブ指導員の育成(エコ安全ドライブ研修)を行っています。

■エコ安全ドライブの3つの効果

①環境面の効果

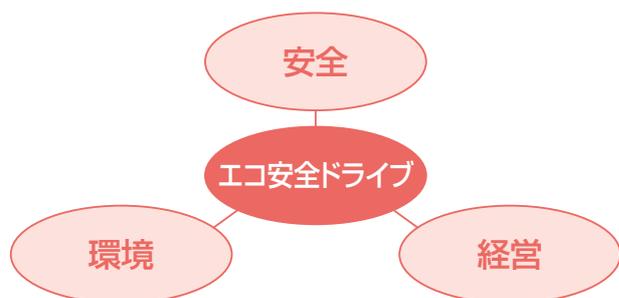
アイドリングストップの実施や急加速・急発進・急停止を行わないなどの行動により排出ガスを削減でき、環境に有害な物質による環境負荷を最小限に抑えることができます。

②安全面の効果

アクセルを踏まないゆったりとした発進やエンジンプレーキの活用と構えブレーキの実施などにより、不測の事態への心構えが十分に行えます。

③経営面の効果

エコ安全ドライブを実施することによる副産物として、燃料消費量を確実に削減することができ、コスト削減につながります。



■エコ安全ドライブ研修

2006年2月・3月に愛知県の中部トラック総合研修センターにて日常的にドライバー教育に携わる「安全推進責任者」、安全運転や安全マナーの確認、単独乗務検定などを行う「安全運転検定員」、さらに新入社員に対してマンツーマンで運転面や営業面をフォローする「SD指導員」を対象に、独自のカリキュラムにより省エネ走行のメカニズム習得や実際にトラックを使用した実技による指導を行いました。

2006年度においては、佐川急便全営業店の管理職を対象に約400名が研修を受講する予定です。

主な研修内容

- 通常走行による運転診断
- トラックの車両特性講習
- 省エネ走行のメカニズム講習
- 運転診断に基づく省エネ運転指導
- 省エネ運転習熟指導

実車による燃料消費測定を行い、指導者自らがエコ安全ドライブの実践ポイントを体得しました。



実車指導の様子

エコ安全ドライブの実践



関西支社 京都店
大野 裕司

エコ安全ドライブ運転はこれまでの運転とイメージがかなり違うため、始めは戸惑いもありましたが、2～3日で身に付きました。エンジン音もかなり小さくなり、やさしい運転になってきたと思います。

エコ安全ドライブ7ヶ条

エコ安全ドライブ推進の具体的手法をさまざまな項目の中から「ふんわりアクセル」や「早めのシフトアップ」など7つの項目に絞り、『エコ安全ドライブ7ヶ条』を設定しました。

社員手帳への掲載やポスターの掲示を行い、全従業員への啓蒙と定着を図っています。

ポスターは安全面の効果と環境面の効果を各々記載するなど、より解りやすく作成しました。

また、「エコ安全ドライブ7ヶ条実践マニュアル」ビデオを使用し、営業店ごとに指導を実施することにより、従業員に深く浸透させています。



佐川急便 エコ安全ドライブ 7ヶ条

- 「ふんわりアクセル」「eスタート」の実践**
 急発進や急減速により燃費が悪化し、過激な加速減速が繰り返されると、エンジンブレーキが作動し燃費が悪化します。
 十分な加速減速を心がけ、二速以降100%の燃費効率を実現することが重要です。急発進・急減速は避けましょう。
- シフトアップは早目に操作**
 シフトアップを早目にすることで燃費が向上し、エンジン回転数が低減されます。
 早急なシフトアップは燃費効率が悪化し、二速以降100%の燃費効率を実現することが重要です。急発進・急減速は避けましょう。
- 交通状況に応じた、定速走行での運行**
 定速走行は燃費効率が高く、CO₂排出量が少なくなります。
 急発進・急減速は燃費効率が悪化し、二速以降100%の燃費効率を実現することが重要です。急発進・急減速は避けましょう。
- 十分な車間距離の確保**
 十分な車間距離を確保することで、急発進・急減速が避けられ、燃費効率が高くなります。
 急発進・急減速は燃費効率が悪化し、二速以降100%の燃費効率を実現することが重要です。急発進・急減速は避けましょう。
- 早目のアクセルオフでエンジンブレーキの活用**
 定速走行時にアクセルをオフすることで、エンジンブレーキが作動し燃費が向上します。
 急発進・急減速は燃費効率が悪化し、二速以降100%の燃費効率を実現することが重要です。急発進・急減速は避けましょう。
- 駐車時は、キー抜き（エンジン停止）の動作**
 駐車時はエンジン停止することで燃費が向上し、CO₂排出量が少なくなります。
 急発進・急減速は燃費効率が悪化し、二速以降100%の燃費効率を実現することが重要です。急発進・急減速は避けましょう。
- 日常の点検・整備と空気圧管理**
 日常の点検・整備と空気圧管理は燃費効率を向上させ、CO₂排出量を削減します。
 急発進・急減速は燃費効率が悪化し、二速以降100%の燃費効率を実現することが重要です。急発進・急減速は避けましょう。

「エコ安全ドライブ7ヶ条」ポスター

アイドリングストップ運動

「アイドリングストップ運動」を1997年から実施しています。

営業店での荷物の積み降ろし作業時や、お客様への集配業務時などドライバーが車から離れる場合、必ずエンジンを停止し、キーを抜くことを全てのドライバーが実践しています。

これにより、無駄な燃料消費を防ぎ、CO₂やNO_x、PMなどを含む排出ガスの削減に結びついています。

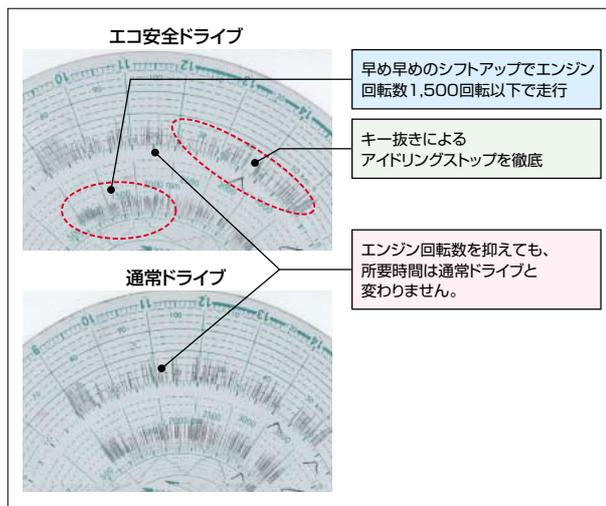
1日に2時間のアイドリングストップを全車両で実行すると、1年間(300日換算)で約2.4万トンのCO₂削減と、約7億円の燃料費が削減できることから、非常に大きな効果を得られています。



効果検証・改善

※「セーフティレコーダ」にエンジン回転数をデータ化する機能を追加するとともに、新規導入車両には、エンジン回転数が取れるレボタコグラフを装備しており、これによりエンジン回転数を基にした指導と改善を実施しています。

また、使用燃料削減値による評価を実施していきます。



※セーフティレコーダ P.18参照

エコ安全ドライブの今後の取り組み

宅配便事業は特定エリア内で集配業務を行う特性上、大型車両で主に高速道路を使用する輸送形態に比べ、エコドライブによる効果が低いと言われています。

佐川急便では、エコドライブに安全を加えた独自のエコ安全ドライブ研修を継続的に実施し、エコ安全ドライブに関する独自のノウハウを積み重ね、添乗指導・新人教育を通じた教育制度の確立を目指します。

ステークホルダーの声



国土交通省 総合政策局
環境・海洋課
地球環境対策室長
寺田 吉道様

以前より佐川急便の環境への取り組みに興味深く拝見しておりましたが、新たに「エコ安全ドライブ」という独自の取り組みを始められたことに、業界のトップランナーとしての強い意志を感じます。この取り組みが企業の枠を超えて、広く一般にも波及することを期待します。

ドライバーの運転状況を映像と写真で記録(セーフティ・レコーダの導入)

運転記録装置の導入

運転中に発生した危険挙動(急ブレーキや事故発生など)を基点にその前後の映像を残すほか、設定した時間や運転行動ごとに写真を記録できる「セーフティ・レコーダ」(運転記録装置)を導入しています。

ヒヤリ・ハット体験の共有

記録された危険映像は、当該ドライバーへの指導だけでなく、他のドライバーも共有することにより、原因と対策を考案するための教育資料として活用し始めています。

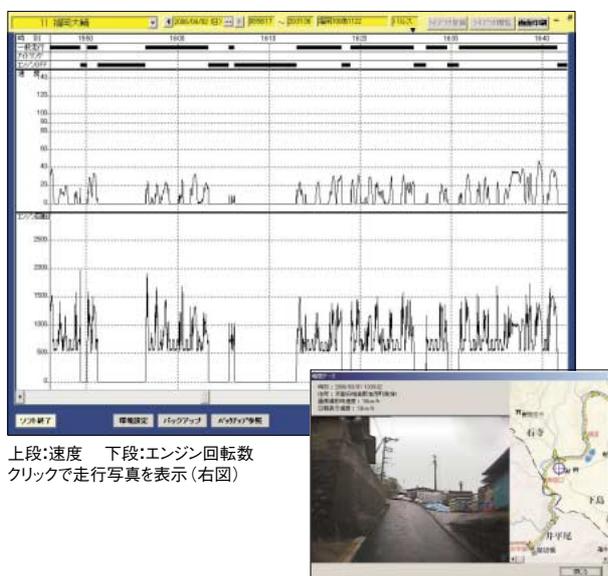


セーフティ・レコーダによるヒヤリ・ハット画像

エコ安全ドライブにも活用

取得されたデータの中から「エンジン回転数が1500回転を超えた回数」と、「アイドリング時間が2分を超えた回数」を表示してエコ安全ドライブ啓蒙を図っています。

冷凍冷蔵車両など温度管理のために全てエンジンOFFにすることの出来ない車両についても、不要なアイドリングが無いように確認を行っています。また、昨今の原油価格の高騰により燃費向上による省エネルギー化に向けた検証機能としても活用しています。



上段:速度 下段:エンジン回転数
クリックで走行写真を表示(右図)

安全運転状況も記録

走行地点、一時停止、駐車、バック箇所などの運転軌跡の地点をすべて写真記録できることから、ドライバー自身の安全運転に対する意識の向上につながっています。また、運転中に万が一、加害車両に衝突された場合でも事故の前後の映像が記録されていることから、双方の証言に頼ることなく、事故時の真相が把握できるほか、ドライバーの運転状況を証明することも可能となりました。



運転軌跡



写真記録

氏名	所属	部署	職名
危険予知トレーニングシート			
従業員番号	社員番号	氏名	印
所属	所属	所属	(社員印)
運転履歴及び状況 走行した地点、一時停止の履歴を記録します。正確に記録してください。			
備考 当該履歴のコメント			

KYTトレーニングシート

車両安全対策

人間の注意力には限界があり、それらをカバーするため、さまざまな過去の事故分析を基に安全機器を検討し、車両に設置しています。

佐川急便では、1987年から車両後方の安全を確保するためバックカメラを導入し、現在では全営業車両（約20,000台）に装備しています。

また、2002年3月からは、D.L.D.運動（デイトタイム・ライティング・ドライブ）と称し、昼間点灯の実施に取り組んでいます。これにより、自車の存在を歩行者や対向車に対してアピールできる他、見られているという環境が安全意識の向上につながっています。



D.L.D.運動

さらに2005年度から新しく導入された車両には、左側方部分の死角を解消するため、左サイドミラーに特殊な「ワイドビューミラー」

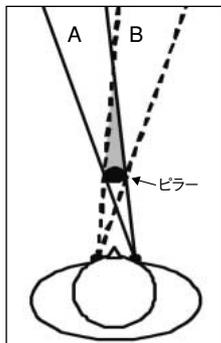


ワイドビューミラー

を装備しました。また、従来のピラーに対し、ピラー断面を細くすることにより、死角を大幅に減少させる車両のほか、走行中に点灯しないルームランプや自走事故防止装置など、ハード面での安全対策を施し、事故の未然防止に取り組んでいます。



ピラー断面を細くしたクリアビューピラー



〔クリアビューピラー概念図〕

幹線輸送の安全確保

1994年より春と秋の年2回「幹線輸送全国一斉安全パトロール」にグループ全社を挙げて取り組んでいます。これは、全国の主要な高速道路のサービスエリアやパーキングエリアにおいて、輸送中の大型トラックを立ち寄らせて点検を行うもので、2005年度で23回目を数え、延べ7万台余りを点検しました。



「幹線輸送全国一斉安全パトロール」ポスター



車両の点検

このパトロールでは、大事故になりかねない大型車両による事故を未然に防止することを目的として、運行管理者や整備管理者がドライバー

の健康状態や運行状況の確認、日常点検基準に準じた車両の点検などと共に、安全運行の呼びかけを実施しています。

また、2005年度より安全パトロールに使用させていただくサービスエリアやパーキングエリアの清掃活動を行い、環境への意識高揚を図っています。



清掃活動の様子



「幹線輸送全国一斉ターミナル点検」ポスター

この他にも、2002年から年に2回実施している「幹線輸送全国一斉ターミナル点検」では、全拠点にて各車の出発前に統一した整備チェックシートに基づく点検を実施しています。

定期点検整備については、グループ会社で整備事業者である佐川ギャラクシーモーターズにより、統一整備を行っています。

これらの活動により、不具合箇所は確実に減少し、運行管理者、整備管理者、ドライバーの安全意識の高揚につながっています。

地域社会への貢献に評価

交通事故ゼロを目指して、佐川急便ではさまざまな活動を全国で行っています。交通安全教室や各事業所での取り組みに対して高い評価をいただきました。

子どもの交通安全活動に対して

4月4日「奈良県春の交通安全県民大会」にて交通安全功労者（企業の部）として、佐川急便御所店が奈良県交通対策協議会会長表彰をいただきました。これは、御所警察署、教育委員会（幼児クラブ）とともに地元の幼稚園、小学校などでの交通安全教室の開催など、安全に関する地域社会への貢献が評価されたものです。また、7月5日佐川ギャラクシーハイウェイズでは、毎日朝の通学時間帯の横断歩道での交通整理と通学路の定期清掃が評価され、福岡県粕屋地区防犯協会長と粕屋警察署長連名による感謝状をいただきました。全国各地でこうした評



御所店に授与された表彰状



横断歩道の安全誘導

価をいただき、従業員の大きな励みになっています。

安全運転管理優良事業所表彰

6月6日佐川ギャラクシーモーターズ金沢店が金沢東警察署長より「安全運転管理優良事業所」として表彰をいただきました。日常の安全運転管理および運転者に対する交通安全教育を行い、交通違反、交通事故防止に努めたことが評価されたものです。同時に、1年間地域の「安全運転管理モデル事業所」として委嘱状を受け、地域社会への貢献に努めています。

表彰をさらなる安全の励みに



佐川ギャラクシーモーターズ金沢店店長 佐藤正彦
(現 営業部営業推進課課長)

これといって特別なことをしたわけではなく、SGホールディングスグループ全体での取り組みと従業員全員の意識が評価されたと思っています。店長として大変光栄に思うとともに、1年間のモデル事業所としての責任を担うべく、より良い環境づくりに努めていきます。

安全、環境への取り組みに対して

近畿陸運局より、陸運や観光などの運輸関係事業に対する功労者が表彰され、佐川急便もその栄誉を受けました。ドライバーコンテストの開催などを通じて交通事故防止に努めている点や、天然ガス自動車の大量導入やモーダルシフトの推進など、環境保全に取り組んでいる点が評価されました。



表彰祝賀会の様子

「安全性優良事業所」の認定取得

佐川急便では、2006年3月20日現在、301の営業店が「安全性優良事業所」の認定を受けています。これは、国土交通省指定の機関（社）全日本トラック協会がトラック運送事業者の安全性を評価し、認定するもので、利用者がより安全性の高い事業者を選びやすくするとともに、事業者全体の安全性の向上に対する意識を高めることを目的としています。これらの認定取得によって国土交通省をはじめ、多くのお客様から信頼を得ることができました。

今後も、より多くの営業店が「安全性優良事業所」の認定を取得できるよう積極的な取り組みを推進していきます。



有効期間：2006年1月1日～2007年12月31日
全国貨物自動車運送適正化事業実施機関



安全性優良事業所認定証

子どもたちの安全を守る活動

子どもたちを交通事故から守るために、全国で「さがわきゅうびん交通安全教室」を展開しています。子どもとのコミュニケーションを通して、あらためて安全意識の大切さを学び、一人でも多くの子どもたちに伝えるために活動しています。

「さがわきゅうびん交通安全教室」を全国で開催

2003年より「未来ある子どもたちの生命を悲惨な事故から守る」をテーマに、全国で交通安全教室を展開しています。きっかけは2003年2月、ある幼稚園からの「卒園する子どもたちに交通安全教室を催してほしい」というご依頼でした。それまでも佐川急便の各営業店では、個別に地元の教育機関、PTA、警察などの依頼を受け、交通安全教室を開催していましたが、これを契機に統一の横断幕・看板・標識・信号機・パンフレットなどを用意し、「さがわきゅうびん交通安全教室」をスタートさせました。



全国で多くの子どもたちが参加してくれました

もっと良い教室を目指して

「さがわきゅうびん交通安全教室」は、保育園児、幼稚園児、小学校低学年が対象です。まだ、人の話を集中して聞く習慣ができていない子どもたちに、交通ルールをわかりやすく伝えるという課題をクリアするため、さまざまな工夫が生まれました。営業店の係長が子どもに扮して、「もしトラックの下にボールが入ってしまったら、どうしたらいいの?」とドライバー役の“お兄さん”に質問をしたり、ドライバーが「ひきやく君」の着ぐるみを着て、子どもたちと一緒に横断歩道を渡るなど、子どもたちの目線に立った活動の成果が表れています。また、トラックの死角を体感するための「車両かくれんぼ」やクイズも、楽しみながら学ぶことに役立っています。



トラックの死角体験

交通安全おねえさんが活躍

2005年度の「さがわきゅうびん交通安全教室」は全国各地で720回実施し、111,512人の子どもたちが参加してくれました。その運営の中心になっているのは女性従業員です。現在は佐川急便各支社の安全推進課のほか、各営業店でも子どもたちに交通安全の大切さを教える女性従業員が増えています。「交通安全おねえさん」として、子どもたちの視線に立った、解りやすく、丁寧な指導は、教育機関やPTA、警察からも高い評価をいただいています。



4年目を迎えた「さがわきゅうびん交通安全教室」

子どもを事故から守りたい



関東支社
安全推進課
岩田 都

教室で子どもたちの顔を見ていると、「この子たちを絶対事故に遭わせてはいけない」と強く思います。子どもたちと接することで、教える側も改めて交通安全の大切さを感じることができます。だからより多くの人に参加してほしいですね。きっと安全運転を再認識してもらえると思います。

かわいいお礼をいただきました

交通安全教室ではドライバーやスタッフ自身も、子どもたちに恥ずかしくない運転をしようと思いを新たにするとともに、子どもたちの笑顔に元気をもらっています。交通安全教室に参加した児童より「ちゃんと左右を見ています」、「くるまはきゅうにとまれないことがわかってよかったです」というお手紙や寄せ書きなどが届くたびに、感動と「さがわきゅうびん交通安全教室」の役割の重さを実感しています。



「交通安全紙しばい」を寄贈

(株)学習研究社(学研)が発行する幼稚園向け交通安全指導教材キット(紙しばい等)の制作に佐川急便が協力しました。

この教材キットは、学研より全国約7,400ヶ所の幼稚園へ寄贈され、幼児の交通事故防止への取り組みに活用されています。

紙しばいでは、主人公の女の子「さっちゃん」がセールスドライバーとの対話を通して、横断歩道の渡り方や信号機の見方、車の特性などを解りやすく学んでいくという物語になっており、佐川急便が日頃から実施している「さがわきゅうびん交通安全教室」などで培ったノウハウが活かされています。



交通安全紙しばい



幼稚園での交通安全指導

また、紙しばいととも各家庭に配布される「交通安全ニュース」の制作にも協力しました。



交通安全ニュース

幼児の交通事故ランキングで常に上位にあがるのは、

- ・信号無視による事故
 - ・飛び出しによる事故
 - ・駐車車両の直前直後の横断事故
- などです。

心身共に発達段階にある幼児は、好奇心が旺盛な反面、注意力が低く交通ルールを理解していないことから、思いがけない行動に出ることがあります。

この「交通安全ニュース」は家庭で繰り返し交通ルールや交通安全について話をする機会を持っていただき、大切な幼い命を守りたいという気持ちをこめて作成されたものです。

佐川急便では、これまでに学研の小学生向け学習参考図書「まんが宅配便のひみつ」(2001年)、中学生向け学習参考図書「物流の未来を担うセールスドライバー」(2004年)の制作に協力しています。

これからも事業で培ったノウハウを各方面に提供し、社会へ貢献できればと考えています。

佐川急便と環境のかかわり

事業活動に伴い発生する環境負荷を正確に把握し、循環型社会の構築に向けて取り組んでいます。

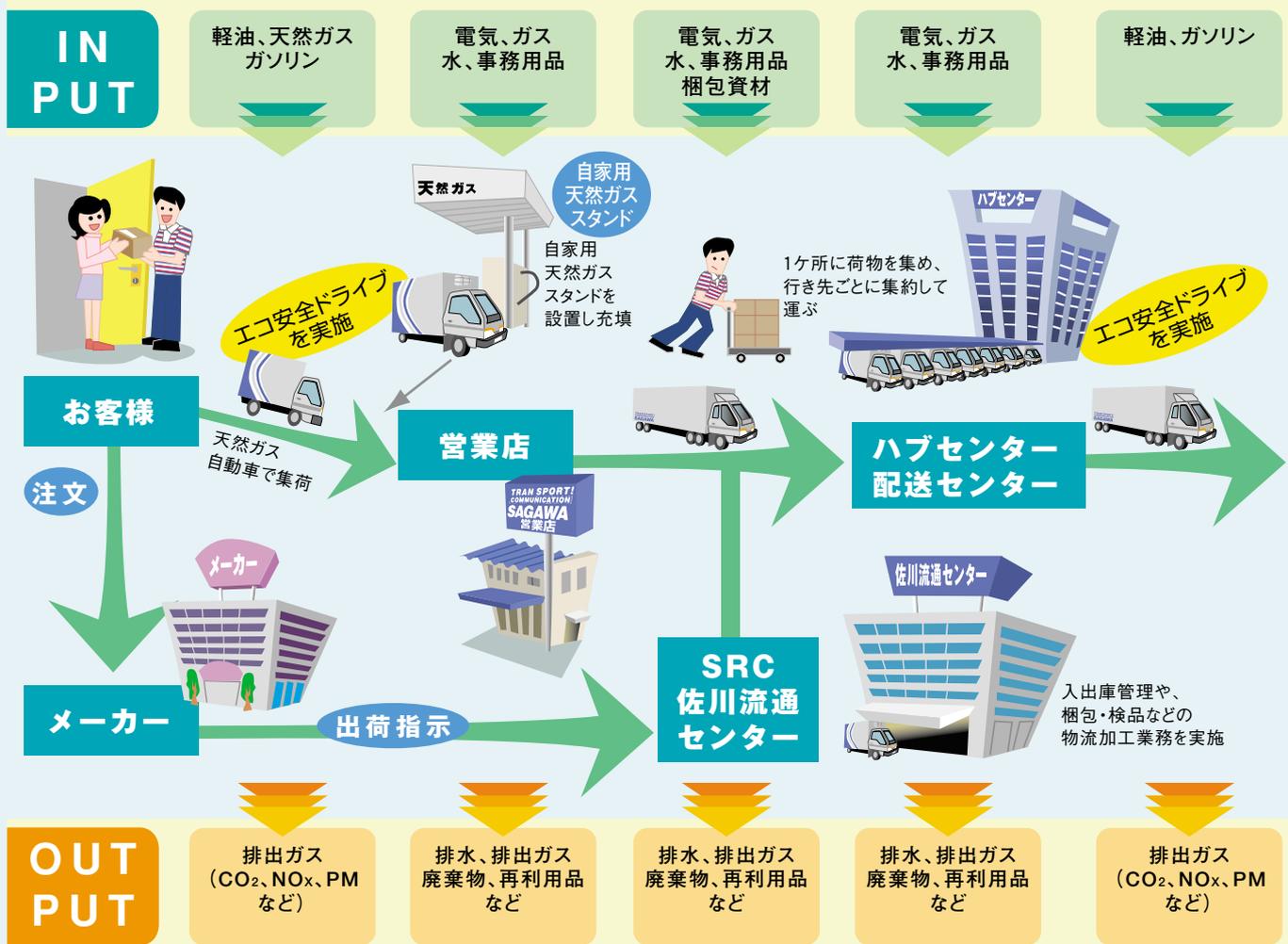
環境理念

佐川急便は「良き企業市民」として自主的で継続的な環境保全の為の基本方針を定め、社会と自然との共生を図りつつ、地球規模の環境問題に取り組み、地域社会の発展に貢献します。

環境方針

1. 排出ガスによる地球温暖化、大気汚染を防止するため、輸送の効率化、低公害車の導入、エコドライブの実践を推進し、環境保全のための継続的な改善を図ります。
2. 省資源・省エネルギーを推進し、その取り組みに対する改善、企画、提案をします。
3. 環境関連法規制、条例、協定及びその他の要求事項を順守し、環境負荷の低減、環境汚染の防止に努めます。
4. 環境教育、啓発活動を通じて全従業員に本方針を周知するとともに、広く一般に環境に関する情報の提供と環境活動を推進します。
5. 環境目的、環境目標を定め、定期的に見直すことにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。

物流事業における環境負荷



環境負荷低減への責任

総物流企業が環境に与える影響は大きく、特にトラック輸送では、化石燃料を使用 (INPUT/インプット) して、地球温暖化・大気汚染の原因となる排気ガスを排出 (OUTPUT/アウトプット) しています。

つまり、環境負荷低減への取り組みを積極的に行わなければならない業種であり、企業の責任と捉えています。

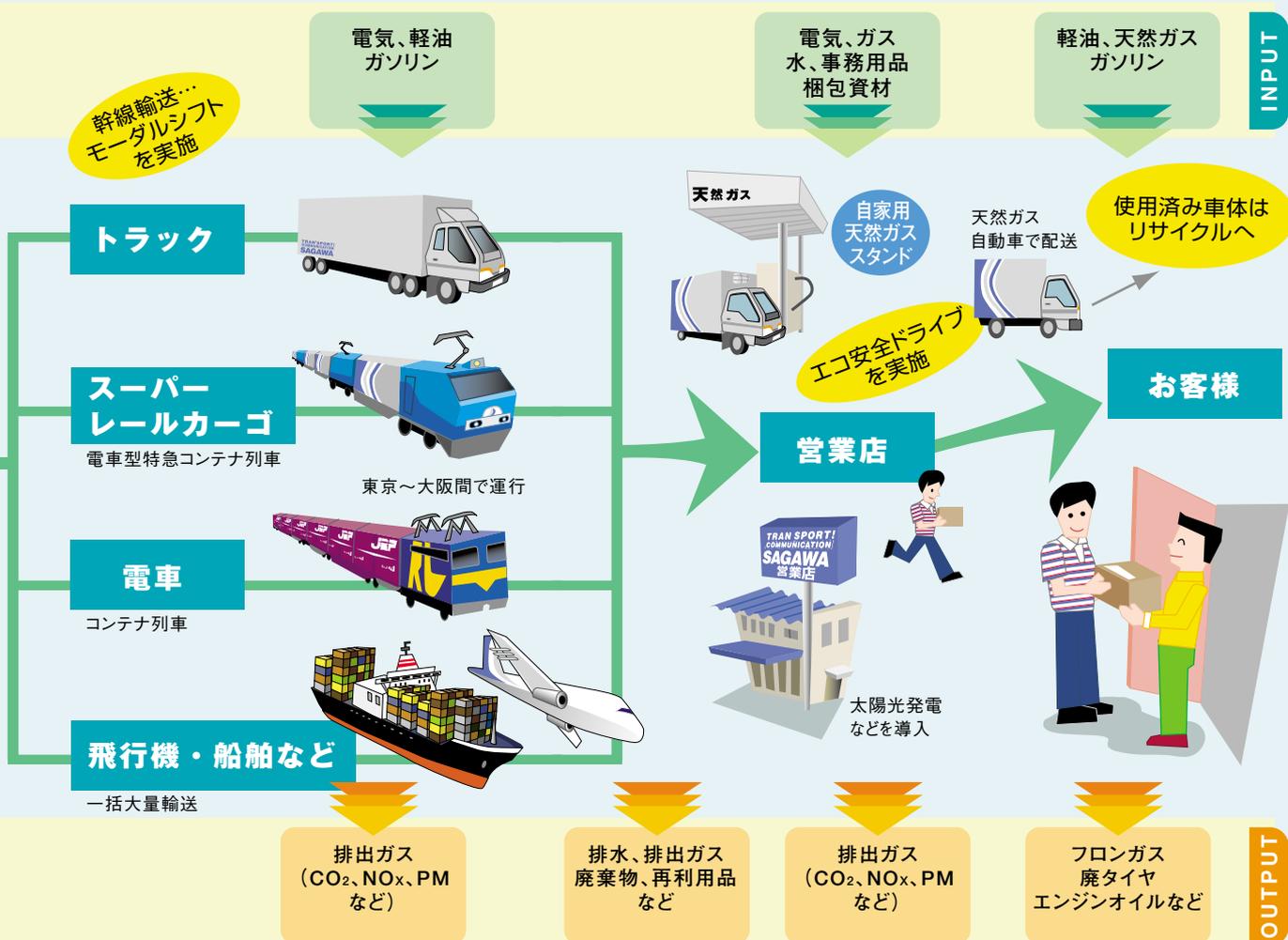
	排出量
CO ₂	34.48万t
* NO _x (トラックのみ)	1,474t
* PM (トラックのみ)	95t

地球環境保全への取り組み

佐川急便では、トラック輸送による環境負荷低減の取り組みをいち早く開始し、低公害車の大量導入をはじめ、佐川流通センターやハブセンター設置による輸送の効率化、アイドリングストップによる排出ガス削減、サービスセンターの設置など、さまざまな活動を実施しています。

また、グループ従業員、家族、広く一般に対する環境啓蒙活動にも注力して取り組んでいます。

- CO₂排出係数:環境省 2002年12月19日発表「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」に基づく。
- 佐川急便施設内に併設するグループ会社や外部テナント等による各項目を除外した範囲で集計しています。
- NO_x/PM各算出値について
NO_x/PM排出量算定方法:国の定める規定値をもとに理論上の推定値を導き出したものです。
計算式:規定値 (g/kWh) × 発熱量 × kWh換算 × エンジン熱効率 × 台数 × 年間燃料使用量 (燃費 × 年間走行距離)



*NO_x … Nitrogen Oxide 窒素酸化物 (光化学スモッグや酸性雨などを引き起こす大気汚染原因物質とされる)
*PM … Particulate Matter 粒子状物質 (ぜんそくや気管支炎を引き起こすとされる)

環境マネジメントシステム

佐川急便では、環境推進体制を整備し、「国際規格ISO14001:2004」や「グリーン経営認証」を取得しており、監査基準に基づき、環境マネジメントシステムを推進しています。

推進体制

2001年より佐川急便本社にてISO14001の認証を受け、環境保全に向けての実施目的や目標・目標数値などを設定する「環境マネジメントシステム」を導入しています。

また、2004年には、佐川急便の9つの営業店がグリーン経営認証を取得し、現場レベルでの環境保全活動を実施しています。

環境監査の仕組み

佐川急便の環境に関する監査は、ISO14001外部認証機関による外部審査と、所定の専門教育を受け環境管理責任者より任命された22名の内部監査員による内部監査を定期的に実施しています。これは、環境マネジメントシステムの継続的改善を目的としており、監査を実施することにより被監査部門では指摘された事項に対する是正処置・再発防止処置として改善策を施します。その改善策が十分であるかを検証するためフォローアップ監査を実施し、改善内容及び効果を検証しています。

2005年度の監査実施状況

2005年度は、2度の内部監査と外部認証機関による定期審査及び2004年版規格への移行審査を実施しました。

内部監査では、被監査部門の実施計画が適切に運用されていることを確認しました。

2004年版規格への移行審査では、「2004年版規格に沿った適切な管理・運営が行われており、継続的改善がなされている事が確認できた」との審査結果により、2004年版規格への移行を完了しました。



定期審査の様子

環境保全活動の目的と目標

2005年度には、環境保全に向けて下記の取り組みを全社で実施しました。

2005年度システム目的・目標に対しての実績

部門	環境目的 ()内は最終到達目標	2005年度目標 目 標
営業部	*排出ガスによる地球環境負荷の低減 *排出ガスの節減・エネルギーの省力化 (2012年までにCNG車累計7,000台導入)	*低公害車の導入 *サービスセンター設立による増車台数の抑制 *モーダルシフト化への運用・研究
IT戦略部	*省資源・省エネルギーによる地球環境負荷の低減 (2006年度中に請求書レス率20%実現) *請求書レス請求書レス顧客件数請求書発行顧客件数	*ペーパーレス化の推進
国際業務部	*海外従業員の環境意識促進	*社内環境啓蒙活動の海外従業員への波及
総務部	*省資源化の推進 *廃棄物の排出量低減 *購入する物品、購入システムの 見直しによる地球環境負荷の低減 (2006年度までに制服リサイクル率90%実現) (2008年度までにグリーン購入比率を80%実現)	*充電式乾電池の普及 *システム構築、データ収集、廃棄物への意識向上 *環境に配慮した調達システムの維持・推進
労務運行 管理部	*車両事故の削減による整備に関わる資源の抑制 *車両から排出されるCO ₂ の抑制	*車両事故の削減 *エコドライブの推進
	*省資源の推進 (2005年度にペーパー使用ゼロの達成)	*統一動怠システムの実運用
人事教育部	*省資源の推進(2005年度中に全社統一給システム導入) *環境保全活動の啓蒙	*統一給システムとの運用 *新入社員に対する環境初期教育 (エコドライブを含む)の推進
CSR 環境推進部	*地球温暖化防止 (新設営業店へ太陽光発電システム導入を推進) *排出ガスによる地球環境負荷の低減 *全社的な取り組みによる環境啓蒙	*太陽光発電システムの導入 *エコステーション新設 *「佐川急便環境行動」実施
財務経理部	*省資源・省エネルギーによる 地球環境負荷の低減	*ペーパーレス化の推進
経営企画部	*出来高・取分実績のWebでの 提供による管理帳票の省資源	*業績分析データベースの運用による ペーパーレス化
広報部	*ステークホルダーへの 環境行動・活動の情報発信	*社内報作成 *ニュースリリース
マーケティング部	*環境への取り組みによる コーポレートブランドイメージの向上	*コーポレートブランドの向上における 環境活動の寄与についての研究
設備投資部	*人・地球・環境への負荷の低減	*施設における環境配慮
関連事業部	*廃棄物の削減・環境保全 (2012年までに小型バン車両全てに ついてエコ車体を導入)※特殊車両除く	*100%リサイクル可能な トラックボディーの導入推進
内部監査室	*社内環境啓蒙・環境活動の検証	*検証の継続および検証結果のフィードバック

2005年度サイト目的・目標に対しての実績

環 境 目 的	2005年度目標 環 境 目 標
①電力使用量の削減 ※2012年度迄に 2002年度比6%減	2004年度比1%の削減
②コピー用紙使用量の削減	2004年度比1%の削減
③資源ごみ再利用の促進	分別、リサイクル

2005年度目標 目標値	2005年度実績	達成/未達成
*天然ガス自動車351台導入	*天然ガス自動車導入実績498台	○
*サービスセンターを34ヶ所設立、増車を131台抑制	*サービスセンター22ヶ所設立、増車78台抑制(※外的要因により未達成)	×
*鉄道・船舶輸送の2004年度実績比1.05%増(年間計78,023便)	*モーダルシフトの2005年度実績 → 目標値78,023便に対し80,829便で達成	○
*請求書データ返却サービスの推進、全体の20%のペーパーレス化	*ペーパーレス化実績 全国平均5.56%(2006年3月度実績)	×
*【上期】自社環境啓蒙ビデオ「美しい空へ」の中国語・英語翻訳版作成	*【上期】環境啓蒙ビデオ翻訳版を作成及び海外全拠点への配布を実施	○
*【下期】海外全拠点に配布	*【下期】視聴状況及び視聴効果の検証を実施、現地スタッフの環境意識の養成に効果を確認	○
*2003年度使い捨て乾電池購入数の50%削減(購入数380本以下)	*購入限度数380本以下に対し購入実績120本	○
*全営業店・店長を対象とした、意識向上セミナーの実施および廃棄物の分別	*廃棄物管理システムの稼働および営業店店長への研修実施による廃棄物分別の実施	○
*【上期】エコマーク認定の半袖シャツを採用(約80,000着)	*【上期】エコマーク認定の半袖シャツを採用:実績85,704枚(一括発注数量)	○
*【下期】エコマーク認定の長袖シャツを採用(約60,000着)	*【下期】エコマーク認定の長袖シャツを採用:実績52,873枚(一括発注数量)	×
*制服リサイクルシステムの推進	*制服リサイクルシステムの推進:リサイクル実績135,562枚(リサイクル率64.5%)	○
*グリーン購入の推進	*グリーン購入の推進:2005年度平均グリーン購入率45.2%	×
*削減目標(車両事故発生指数0.480以下)	*車両事故発生率0.395(目標値に対して0.085ポイント減少させ達成)	○
*全国ドライバーコンテストの実施(6月下旬)	*全国ドライバーコンテストの実施(6月10・11日)	○
*アイドリングストップの指導(安全戦略実施計画7月度)	*アイドリングストップの指導を実施	○
*毎月第1金曜日「車両事故ゼロの日」にアイドリングストップの検証を同時に実施	*毎月第1金曜日「車両事故ゼロの日」にアイドリングストップの検証を同時に実施	○
*新人研修(随時)	*新人研修を随時実施	○
*3月21日(本社・四国・関西・北陸・中京・北海道ブロック)導入	*全ブロックに導入完了(⇒最終到達目標達成)	○
*5月21日(中国ブロック)、6月21日(九州ブロック)導入		
*7月21日(関東・東北ブロック)導入		
*新給与・人事制度の導入によるペーパーレス化推進	*全ブロックに導入完了(⇒最終到達目標達成)	○
*入社前教育として冊子「ようこそ佐川急便へ」の配布	*2005年度新入社員4,140名への冊子配布・教育を実施	○
*新入社員基礎研修マニュアルに基づく環境初期教育の実施		
*八王子店、羽生店、習志野店、八幡店へ導入	*9/21八王子店、10/21羽生店、10/21習志野店、11/21八幡店に導入完了	○
*久喜店へ新設	*外的要因により未達成(次年度へと繰り越し)	×
*環境ポスター作成・配布(4月度)	*アイドリングストップ・・・年間平均履行率99.6%	○
*アイドリングストップ検証日(毎月第一金曜日)	*クリーンアップデー(4.7.10.1月実施)・・・39,608名参加	○
*クリーンアップデー(4.7.10.1月度)	*佐川急便グリーン運動・・・支社、営業店に花の種を配布	○
*省エネルギー運動(夏季7～9月度、冬季12～2月度)	*「さがわの森」環境研修(6/17.18実施)・・・34名参加	○
*佐川急便グリーン運動(5月度)	*環境推進店表彰(6月)・・・113件応募、入賞5件 9/24表彰式	○
*「さがわの森」環境研修(6月度)	*省エネルギー運動・・・実績:7～9月2004年度比3.14%減 約204kw削減	○
*環境推進店表彰(6月度)	12～2月2004年度比3.14%増 約187kw増加	×
*環境ポスターコンクール(8月度)	*佐川急便ポスターコンクール・・・1,697点応募 入賞10件 1/21表彰式	○
*環境標語募集(8月度)	*環境標語募集・・・10,336点応募 入賞10件 1/21表彰式	○
*エコドライブ推進運動(9月)	*エコドライブ推進運動(9月度実施)・・・9月度アイドリングストップ履行率99.9%	○
*環境・社会報告書教育推進運動(11月度)	*環境・社会報告書教育推進運動・・・「環境・社会活動リーフレット」を活用し環境教育を実施	○
*ゴミ分別徹底運動(11月度)	*ゴミ分別徹底運動・・・「分別徹底ポスター」、「佐川急便排出物標準別一覧表」を掲示し分別を徹底	○
*新経理システムの全社運用	*達成率106.6%(目標725千枚以下に対し、2005年実績680千枚)	○
*機能強化によるペーパーレス化推進(出力枚数725千枚以下)		
*四半期決算の開始		
*出来高・取分実績の照会機能やデータ提供を実施、ペーパーレス化推進	*2005年8月にシステムリリース、画面による出来高・取分実績の照会やデータ提供を行いペーパーレス化を実施。	○
*社内報:月1回紹介(広報誌、ビデオ共)	*社内報「飛脚」:毎月1回、環境関係記事掲載	○
*ニュースリリース:環境行動に基づき、積極的に社外へ公表	*社内報ビデオ「ふれあい」:毎月1回、環境関係ニュース紹介	○
*各種分析資料の管理	*ニュースリリース:随時、報道関係者にて公表	○
*企業訪問の継続による情報収集	*ブランド総合調査の実施による、当社の環境への取り組みに対する社内外の認知度を定量的に把握	○
	*各種セミナーへの参加(全25回)	○
	*ブランドマネジメントフォーラムへの参加(月1回)	○
	*他企業訪問(約20社)による他社の環境への取り組みにおける情報の収集	○
*Tokyoビッグベイ・八幡店・八王子店・習志野店・羽生店・恵那店・伊勢店・須崎店・野田店に対する下記2点の環境配慮の実施	*自然光を利用した照明効果による省エネ設計の実施:八王子店・習志野店・羽生店・恵那店・伊勢店	○
①建設・管理・運用の全てにおける、作業効率の向上及びロ・コスト化を重視した施設づくり	*太陽光発電システムの導入実施:八幡店・八王子店・習志野店・羽生店	○
②環境への負荷を減らし、社会への責任を果たしながら企業PRを盛り込んだ地域貢献・社会共益を実現する施設づくり	*建設リサイクル法に準拠した廃棄物発生抑制と分別:自社物件の八幡店・八王子店・恵那店・伊勢店・須崎店	○
	*騒音に配慮した搬送設備やモニターを設置:Tokyoビッグベイ・八幡店・八王子店・習志野店・羽生店・恵那店・伊勢店・須崎店	○
	*その他:八王子店防音壁設置・八幡店遮光フェンス設置	○
	*野田店は工期延期により未達成	
*新型ボディへの導入状況調査の実施、リサイクル不可能材の使用率減少状況の把握	*エコ車体導入実績1,194台	○
*エコ車体導入目標台数:1,083台		
*総合内部監査時の環境活動のチェック(月に1～2回実施)	*総合内部監査時におけるグループ法人の環境取り組みを確認、省エネ・ゴミ分別等の活動を確認	○

2005年度目標 本社目標値	2005年度実績	達成/未達成
年間 909,274kw	年間 931,796kw(2004年度比1.5%増)	×
年間 4,124,588枚	年間 3,281,250枚(2004年度比20.5%減)	○
	年間 22,215kg リサイクル	

環境会計

より効果的な環境経営実現のため環境会計を導入しています。2005年度は、集計の基準をより明確化し、数値の正確性・網羅性向上や前年度との比較・検証が可能になりました。今後、更なる精度向上と結果の活用を進めるとともに、グループ全体への導入へ向けて取り組みます。

2005年度の活動と結果

2005年度の結果としては、環境投資額が約1億5千万円、環境費用額が約67億9千万円となりました。2004年度と比較すると、2005年度は天然ガス自動車の新規導入をリースに切り替えたこと（投資計上⇒費用計上）や自家用天然ガススタンドの新設がなかったことなどから、環境投資は2億2千万円の減少となりました。環境費用については、2005年度安全対策コストの集計

範囲を拡大したほか、セーフティ・レコーダやワイドビューミラーの新規導入、アスベスト粉塵対策を行ったことなどにより、8億6千万円の増加となりました。環境保全効果については、天然ガス自動車導入の取り組みなどによる軽油、NO_x、PMの削減効果が出ています。

環境保全コスト

(単位:百万円)

分類	主な取り組み内容	2004年度		2005年度		増減の主な要因
		環境投資	環境費用	環境投資	環境費用	
(1) 事業エリア内コスト		363	899	148	1,033	
内訳	① 公害防止コスト	216	87	92	148	投資が減少しているのは、酸化触媒装着義務化2年目により、新規取り付け台数が昨年に比べ大幅に減少したことによる。費用増加は、2005年度における防音・光公害フェンスへの投資の減価償却発生によること大きい。
	② 地球環境保全コスト	143	65	50	96	投資減少は、天然ガス自動車新規導入方法の買取からリースへの切り替えが進んだこと、自家用天然ガススタンド新規設置がなかったことなどによる。
	③ 資源循環コスト	4	747	6	789	費用増加は、節水コマ設置場所を拡大したため。
(2) 上・下流コスト		—	—	—	—	
(3) 管理活動コスト	環境マネジメントシステム導入、グリーン経営推進、環境広告、環境教育、環境情報の開示	6	133	—	201	費用増加は、環境広告に、より力を入れたため。
(4) 研究開発コスト	ECC車体開発、佐川グリーンメール開発	—	11	—	2	主な研究開発案件が比較的低コストのものであったこと。また環境に関連する費用か否かの吟味を2004年度よりも厳密に行ったため。
(5) 社会活動コスト	国内外環境保全団体への寄付、啓蒙活動	—	268	—	189	環境イベント等の意義や内容を吟味し、当社の方針と合致する活動に選択的に参加したため。
(6) 環境損傷対応コスト	アスベスト粉塵対策	—	—	—	27	アスベスト粉塵対策費用を計上。
(7) 安全対策コスト	安全対策としての車両点検、従業員教育、啓蒙活動	—	4,616	—	5,337	費用増加は、集計範囲の拡大及びセーフティ・レコーダ、ワイドビューミラー等の新規導入による。
合計		369	5,927	148	6,789	

環境保全効果

環境パフォーマンス指標	2004年度	2005年度	環境保全効果 (2005年度実績-2004年度実績)	
軽油 (kℓ)	84,432	82,816	-1,616	
灯油 (kℓ)	—	396	—	(注1)
重油 (kℓ)	—	80	—	(注1)
天然ガス (km ³)	7,483	9,656	2,173	(注2)
都市ガス (km ³)	1,077	1,055	-21	(注2)
プロパンガス (kg)	588,863	921,512	332,649	(注3)
ガソリン (kℓ) ※ハイオク含む	8,387	8,932	546	
電気 (kWh)	23,334万	23,347万	12万	(注4)
水(上水) (km ³)	956	1,011	56	
水(下水) (km ³)	960	1,011	50	
NO _x (t)	1,570	1,474	-96	(注5)
PM (t)	127	95	-32	(注5)
ペットボトルリサイクル量(本)	—	—	480,771	(注6)

- ・環境保全効果は、2004年度比の単純増減で算出しています。
- ・(注1) 灯油、重油については2005年度から集計しています。
- ・(注2) 天然ガス、都市ガスについては、供給会社からの請求書に記載された数値を集計しており、温度補正、圧力補正をしていない数値です。
- ・(注3) データ集計体制の整備により、より精緻化した数値となっています。また、供給会社からの請求書に記載された数値 (m³) を 2.07kg/m³ を使用し重量換算しています。
- ・(注4) 環境・社会活動報告書2005掲載数値より一部修正しています。
- ・(注5) NO_x、PM排出量はトラックに関連するもののみ。
- ・(注6) ペットボトルリサイクル量は、2005年度においてペットボトルを原料とするユニフォームの使用により、ペットボトルのリサイクルに貢献したと考えられる効果をペットボトル本数に換算して記載しています。(換算値:半袖2.42本/枚、長袖3.76本/枚)

環境保全効果に伴う経済効果

(単位:百万円)

経済効果	金額
軽油使用量削減に伴う費用削減	136
都市ガス使用量削減に伴う費用削減	12

- ・環境保全対策に伴う経済効果は、2004年度比の数値を利用。
- ・単価:当社購入価格を利用。

集計方法

- ・集計期間:2005年度(2005年3月21日~2006年3月20日)
- ・対象範囲:佐川急便株式会社単体(一部佐川ギャラクシーモーター株式会社含む)
- ・参考としたガイドライン:環境省「環境会計ガイドライン2005年版」
- ・20万円以上の資産の取得を投資として計上しています。
- ・環境設備の減価償却は、4年間の定額償却で算出しています。
- ・人件費は環境活動時間×当社平均人件費単価で算出しています。

SGホールディングスグループ環境行動

SGホールディングスグループでは、従業員の環境保全に対する意識の高揚を目的として「SGホールディングスグループ環境行動」を制定し、従業員参加型の環境行動指針として、年間を通じた活動を行っています。

2005年度実施項目



環境行動ポスター

1	アイドリングストップ検証日
2	クリーンアップデー
3	佐川急便グリーン活動 ~全国緑化活動~
4	「さがわの森」環境研修
5	環境推進店表彰
6	省エネルギー運動(夏季)
7	環境ポスターコンクール
8	環境標語コンクール
9	エコドライブ推進運動
10	環境・社会報告書教育推進運動
11	省エネルギー運動(冬季)
12	ゴミ分別徹底運動

クリーンアップデー

従業員一人ひとりのごみ問題に対する意識の向上を図るとともに、地域の美化推進に貢献することを目的として、実施しています。全国のグループ従業員が地元企業や自治体、NPOなどと連携してグループ関連施設周辺の道路などの清掃活動を行いました。



2005年度は、のべ39,608名の従業員が参加しました

このような地域環境保全活動が認められ、京都市から感謝状をいただきました。



京都市からの感謝状

環境推進店表彰

佐川急便営業店や各グループ会社で行っているさまざまな環境保全に取り組む姿勢を表彰する「環境推進店表彰」を行っています。2005年度も113件の応募の中から、5店(社)が表彰されました。

省エネルギー活動や廃棄物発生抑制の取り組み、緑化運動など、自主的で個性豊かな取り組みを行っています。

「さがわの森」環境研修

東京に50ha、四国に700ha(「さがわの森」)の森林を保有しています。「さがわの森」では、体験学習を通じて森林保全の重要性を学ぶ環境研修を行っています。研修では、森林の間伐を行う森林保護管理体験や記念植樹を実施し、参加者からは「林業の大切さを再認識した」、「環境教育をしっかりとすすめることが重要」といった感想がきかれ、自然の大切さを再認識しました。



森林体験学習の様子

環境ポスター・環境標語コンクール

家族で環境について考える機会をもつために、従業員の子を対象にした「環境ポスターコンクール」と、全従業員を対象にした「環境標語コンクール」を開催しています。2005年度は、ポスターには1,697点の応募、標語には10,336点の応募がありました。

環境標語コンクール金賞

ありますか?あなたの心にエコマーク
(四国支社 阿南店 橋本剛)

環境ポスターコンクール 最優秀賞に輝いた小松瑠汰君



絵を描いているときは、最優秀賞を受賞できるかも、と冗談で思っていたのですが、本当に受賞したことを聞いたときは、とてもうれしかったです。環境ポスターと聞いて、「地球にやさしい」ということが頭に浮かび、「地球が安心する」という思いをこめて描きました。将来、住みやすい地球にしていけるためには、一人ひとりが心がけなければいけないことがいっぱいあるので、1つずつ心がけていきたいと思います。



環境啓蒙活動

社内における環境啓蒙活動だけでなく、環境イベント等を通じて、広く一般に環境啓蒙活動を行っています。

「チーム・マイナス6%」に参加

温室効果ガス排出量6%削減を目指した国民プロジェクト「チーム・マイナス6%」に参加しています。夏季には、「COOL BIZ(クールビズ)」の趣旨に賛同して、「COOL BIZ」のバッジを着用し、「ノーネクタイ・ノー上着」を実践しました。



COOL BIZバッジ



チーム・マイナス6%のロゴ

「みどりの小道」環境日記への協賛

(財)グリーンクロスジャパンが主催する「みどりの小道」環境日記事業に協賛しています。環境日記を毎日記入することをきっかけに、日頃から身近な地球環境について考え、自らが環境活動を実践する習慣を身につけるための事業です。環境教育の一環として多くの小学校で使用されている「みどりの小道」環境日記2005年では、佐川急便の環境保全活動を紹介しました。



「みどりの小道」環境日記2005年

環境イベントでの環境授業

授業の一環として環境イベントに来場する小中学生が増えています。そこで佐川急便では、出展ブース内に専用のコーナーを設け、スタッフが講師となって分かりやすく地球環境保全の大切さを伝えています。

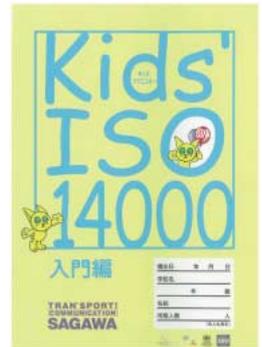


環境イベントでの環境授業

Kids' ISO 14000プログラムへの協力

子どもの環境教育、国際理解、ITなどの総合教育プログラムで国際芸術技術協力機構 (Artech) が主催している「Kids' ISO 14000プログラム」に協力しています。

次世代を担う子どもたちに対する環境教育という視点から、今後は従業員自らがインストラクターとして、活動をサポートしていく予定です。



Kids' ISO 14000プログラム

小学生への環境授業

京都商工会議所が主催する「小学校への環境学習事業」に参加し、京都の小中学生に地球環境問題の教育や、物流のしくみ、交通安全教室など、体験型学習を実施しています。



環境授業の様子



排気ガス比較体験学習

環境プログラムの研究

佐川急便では、神戸大学、神戸大学環境サークル、NPO団体との協働により、子どもたちが環境について身近に考えられるプログラムづくりを目指し、幼児・子どもを対象とした環境プログラムの開発・研究を行っています。

2005年度は、神戸大学が運営する子育てと共生の支援施設にて、植物観察や水質実験、環境授業を実施しました。



水質実験の様子

主な環境イベントへの出展

イベント名	開催日	開催場所	主催
エコライフ・フェア2005	6月11日～12日	東京都 都立代々木公園	環境省他
環境フェスティバル21	11月12日～13日	大阪府 万博記念公園	大阪府他
京都環境フェスティバル2005	12月10日～11日	京都府 京都府総合見本市会館	京都府他
エコプロダクツ2005	12月15日～17日	東京都 東京ビッグサイト	日本経済新聞社他
ENEX2006	(東京会場) 2006年2月1日～3日	東京都 東京ビッグサイト	(財)省エネルギーセンター
	(大阪会場) 2006年2月16日～18日	大阪府 インテックス大阪	

主な講演・セミナー・シンポジウム

開催日	名称	主催者
2005年7月21日	災害時の物流を考える(シンポジウム)	災害と物流を考える実行委員会
10月18日	第2回物流環境管理士養成講座	(社)日本物流団体連合会
10月25日	持続可能型環境経営セミナー	NPO法人環境市民
10月27日	京都大学2005年度特別公開講座	環境を考える経済人の会21(B-LIFE21)
11月28日	CSRの見地から見たグリーン物流研究会	国土交通省
11月29日	毎日21世紀フォーラム	毎日新聞社
11月30日～12月2日	平成17年度環境教育リーダー研修基礎講座	文部科学省、環境省 大阪府、大阪府教育委員会
12月16日	グリーン・サービサイジングビジネスセミナー	経済産業省
12月16日	CSRとグリーン物流セミナー (パネルディスカッション)	国土交通省 経済産業省
2006年2月16日	環境先進自治体会議 (パネルディスカッション)	京都市
2月17日	京都議定書発効1周年記念フォーラム 「地球環境を守るために考えよう、一人ひとりができること」 (パネルディスカッション)	京都市、毎日新聞社
2月23日	JICA地球温暖化研修	(独)国際協力機構(JICA)
2月27日	都市域環境問題研究会 第18回イブニングセミナー 「地球温暖化対策京都議定書の約束履行期限迫る」	都市域環境問題研究会
3月3日	第3回朝日環境フォーラム	朝日新聞社

京都大学2005年度特別公開講座

10月27日に開催された「京都大学2005年度特別公開講座」において、佐川急便(株)代表取締役社長 栗和田榮一(現SGホールディングス(株)代表取締役会長兼社長兼務)が、佐川急便の環境経営について講義を行いました。これは、環境NGO「環境を考える経済人の会21」の寄付講座として実施されたものです。約400人の受講者から「企業同士、また行政などさまざまな機関とともに環境の取り組みを行うことは大変重要であり、意義深いものと感じる」、「佐川急便の個性的で活発な環境に対する取り組みが、物流業界、さらには日本産業界を触発してくれることを願いたい」などの意見をいただきました。

環境啓蒙活動に対する外部からの評価

「平成17年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞



「平成17年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞しました。SGホールディングスグループ全従業員を対象とした環境行動指針の策定、環境イベントへの出展や冊子の配布など、地球環境の保全には、一人ひとりの意識の高揚が重要であると考えて取り組んできた活動が認められたものです。

環境保全活動を社内での活動にとどめず、各家庭で家族と一緒に実践できるような、簡単な省エネ冊子を毎年発行し、グループ全従業員の家庭に配布しています。



佐川急便の環境経営と企業の社会的責任について講演

環境パートナーシップ

地球環境の保全と持続可能な社会の構築のためには、ステークホルダーとのパートナーシップが不可欠です。佐川急便は、(財)日本オリンピック委員会(JOC)の環境オフィシャルパートナーとして、選手強化、オリンピックムーブメントの推進はもとより、JOCが取り組む環境活動にパートナー企業として参加し、啓蒙活動を行っています。

スポーツと環境

地球環境の悪化により、スポーツの中には従来どおりのやり方では開催が難しくなっている種目もあります。いつまでもスポーツを楽しむことが出来る美しい地球を残していくためにも、環境活動の大切さを知っていただき、行動に移していくことが大切です。

国際オリンピック委員会(IOC)では1990年代に入り、「環境」をあらたに「スポーツ」「文化」に加えたオリンピック・ムーブメントの大きな柱として、環境負荷が少ないスポーツのあり方を考え、運営や施設に工夫を加えながら、環境保全のメッセージを発信しています。

オリンピックデーラン

オリンピックデーランは、オリンピックと一緒にジョギングをし、汗を流してスポーツすることの楽しさを知っていただくことを目的としています。

佐川急便では、2005年度全国10会場で開催されたオリンピックデーランの各会場で、オリンピックにおける環境活動の取り組みと佐川急便の環境活動を掲載したパネルの展示を通じて、スポーツと環境の密接なかかわりを紹介し、一人ひとりが行う環境活動の大切さを伝えています。



オリンピックとのジョギング

ステークホルダーの声



オリンピックデーラン
アンバサダー

荻原 次晴様

僕が競技をしていた頃は、氷や雪がなくなって、競技が出来なくなるかもしれないなんて想像もしていませんでした。今、それが現実になり始めています。僕はオリンピックデーランを通して、スポーツを愛する多くの人たちに地球の大切さを伝えていきたいと思います。

オリンピックフェスティバル

オリンピックフェスティバルは、全国各地で開催されるオリンピックデーランの中で、最も規模が大きい大会です。

佐川急便では、天然ガスイベントカーを展示し、ゲームをしながら楽しく学ぶ「スポーツ環境ビンゴ」や地球温暖化についてのプレゼンテーション、佐川急便の環境活動を掲載したパネルを使用しているクイズなどを実施し、来場された多くの方々に環境活動の大切さを知っていただきました。



トリノオリンピック選手への
応援メッセージフラッグ

トリノオリンピック

2006年1月22日に行われた、第20回オリンピック冬季競技大会(2006/トリノ)日本代表選手団の結団式・壮行会で、環境ブースを出展しました。



結団式の様子

ブースでは、自転車を漕いで発電する装置を使って、発電するために必要なエネルギーを来場者自身が体感し、電気の大切さを呼びかけました。また、スポーツと環境の関係について説明したパネルや日本全国から寄せられたオリンピック出場選手への応援メッセージフラッグを展示しました。



オリンピック関係者向け施設「JOCジャパンハウス」内に設けられた宅配取次ぎカウンター

オリンピックコンサート

オリンピック・ムーブメントの1つとして、毎年オリンピックデーである6月23日を記念してオリンピックコンサートが開催されています。

佐川急便では、オリンピックコンサートに特別協賛し、オリンピックにおける環境活動の取り組みと、佐川急便の環境活動を掲載したパネルの展示や、来場者の方々へパンフレットを配布し、環境についての啓蒙活動を行いました。

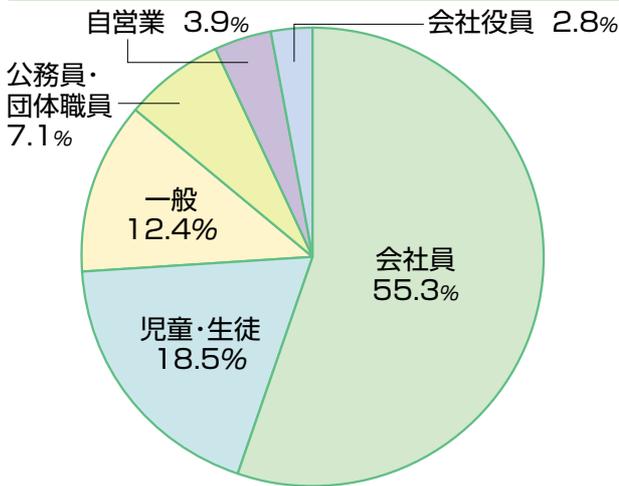


パネル展示の様子

環境アンケート

佐川急便では、2005年度も「エコプロダクツ2005」や「ENEX2006」など各地で開催された環境イベントに出展しました。イベントブースでは、来場者にアンケートを行い、佐川急便の取り組みに対するさまざまなご意見を頂戴しました。この貴重なご意見を今後の取り組みに対する参考とさせていただきます、「すべての人々に選ばれる企業」としてご期待に沿えるよう努めてまいります。

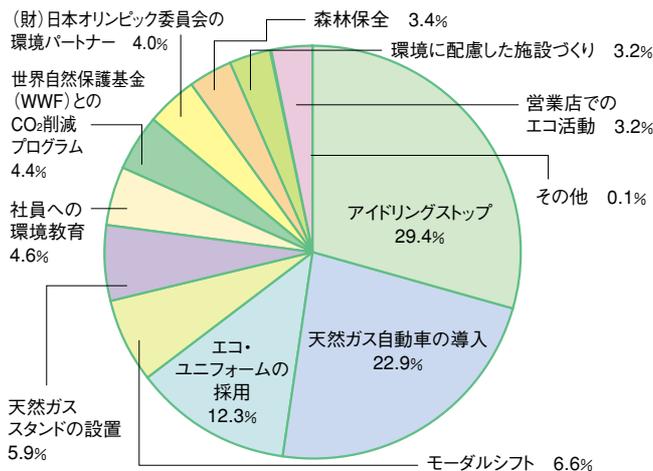
年間を通した来場者の割合



ビジネス等で各種イベントに参加する機会が多い会社員の来場が過半数を上回り最も多く、次いで環境学習の一環として来場する児童・生徒が全体の2割近くを占めていることは、若年層の環境への取り組みが広まりつつあることを意味していると捉えています。また、一般来場者も12%に上り、環境問題への関心が広く一般にも浸透し始めていると感じています。

これらのことから、さまざまな立場の人々が来場されることを考慮する必要があり、今後における展示内容やコミュニケーション方法を工夫し、すべての来場者に満足いただける活動を実践していきます。

佐川急便の取り組みで知っていた内容



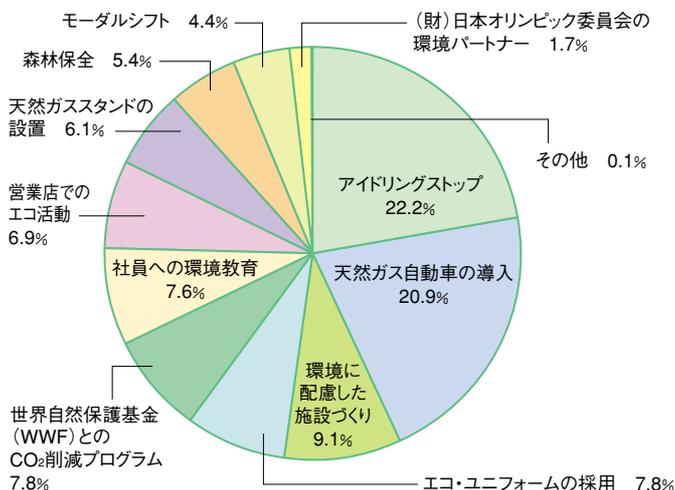
佐川急便の環境への取り組みについて既知の内容、今後期待する内容共に「アイドリングストップ」と「天然ガス自動車の導入」が回答の大きな割合を占める結果となりました。

このことから、佐川急便が最も注力する取り組みと、ステークホルダーが最も期待する内容が一致しているという結果が得られ、今までの取り組みが正しかったことへの裏づけであると同時に、これからも継続して取り組む自信につながっています。

来場者の方々より寄せられたアンケートには、「大切な地球のためにこれからもお願いします」「先頭に立って頑張ってください」といった励ましや期待と、「一緒に環境活動に取り組んでいきたい」といった積極的なご意見も頂戴しました。

今後も多くの方々から寄せられるご期待に沿えるよう積極的な環境活動に取り組んでいきます。

今後期待する内容



地球温暖化防止・大気汚染防止への取り組み

地球温暖化の主な原因は、CO₂などを中心とする温室効果ガスの増加と考えられています。総合物流企業として、低公害車の導入や、モーダルシフトの推進などを通じて、温室効果ガス削減のための取り組みを積極的に進めています。

佐川急便の挑戦

さまざまな環境問題が発生している現代社会において、私たち総合物流企業が担う責任は重大です。

地球温暖化防止、大気汚染防止への取り組みが事業活動を継続するための最重要課題と捉え、CO₂削減、大気汚染物質の削減に挑戦しています。

佐川急便のCO₂排出削減目標は6%

佐川急便は、WWF（世界自然保護基金）の「クライメート・セイバーズ・プログラム」へ日本企業としては第一号、物流企業としては世界で初めて参加しています。

クライメート・セイバーズ・プログラムは、WWFと企業がパートナーシップを結び、企業の温室効果ガス削減の計画とその実施を行っていくプログラムです。

2003年にWWFと覚書を締結し、「2012年までにCO₂総排出量を2002年度比で6%削減する」という目標を掲げ、全社を挙げて取り組んでいます。

目標を達成させるために、佐川急便では2012年までに天然ガス自動車7,000台を導入します。2006年3月20日現在、2,693台を導入しており、順調に計画が進んでいます。

2005年京都議定書発効 日本の温室効果ガス削減目標は6%

1997年に京都で開催されたCOP3（気候変動枠組条約第3回締約国会議）で採択された京都議定書が2005年2月に発効しました。これにより、2008年から2012年の間に温室効果ガスを1990年比で6%削減することが日本の義務となりました。

1990年の温室効果ガス総排出量は12億3,700万tであり、現在のところこれが基準年排出量となります。この基準年排出量を6%削減することが目標となりますが、2004年の総排出量は速報値で13億2,900万tで、基準年に対し7.4%増加していることから、目標を達成するには、現時点から約14%を削減しなければなりません。

目標を達成するための対策として、国、地方公共団体、事業者、国民が担う役割があり、それぞれの立場で責任を果たさなければ目標を達成することはできません。

3年間でCO₂ 3.11%削減を達成

(2002~2005年度)

佐川急便では、2002年度から2005年度までの3年間に天然ガス自動車を1,110台から2,693台へ増やし、軽油自動車を17,246台から15,568台に減らしました。その結果、天然ガス自動車導入などによるCO₂の削減効果は、2002年度比で3.11%、CO₂換算で11,387tとなりました。

2002-2005年度CO₂総排出量 (単位:t-CO₂)

	軽油	ガソリン (ハイオク含む)	天然ガス	電力	合計
2002年度	244,552	18,780	5,810	97,477	366,619
2005年度	217,648	20,741	18,916	97,927	355,232
増減 (05年-02年)	▲26,904	1,961	13,106	450	▲11,387
対比 (05年/02年)	89.00%	110.44%	325.58%	100.46%	96.89%

※当社がクライメート・セイバーズ・プログラムの取り組みを開始した2002年度を基準としています。

※CO₂排出係数：環境省2002年12月19日発表「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」に基づく。

※2002年度のベースライン算出の集計範囲（佐川急便施設内に併設するグループ会社や外部テナント分の電力、燃料外販分を含んだ範囲）に合わせた数値で算出しています。



2005年6月30日、WWFジャパンと共同で記者発表を開催し、CO₂削減の取り組み「クライメート・セイバーズ・プログラム」の経過報告を発表しました。

天然ガス自動車の大量導入促進のためのインフラ整備

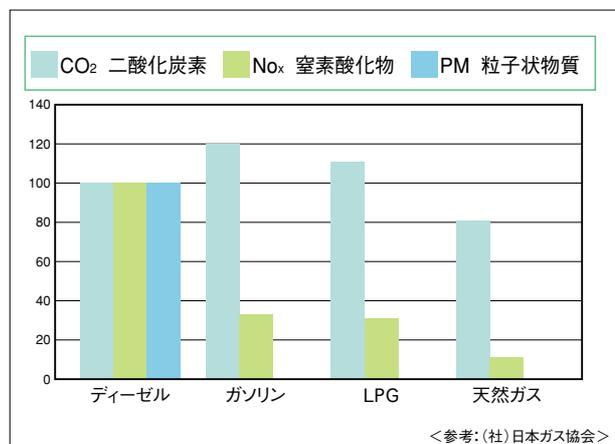
計画に基づいた天然ガス自動車の大量導入のためには、インフラの整備が不可欠です。佐川急便では、「天然ガススタンド設置推進プロジェクト」を立ち上げ、独自に天然ガススタンドの設置を行っています。現在全国で6ヶ所保有し、天然ガス自動車の大量導入をバックアップしています。



環境にやさしい天然ガス自動車

天然ガス自動車は、天然ガスを燃料としており、ディーゼル車と比べて、CO₂やNO_xの排出量が少なく、PMは全く排出しません。

■ 排出ガスの性状比較 (ディーゼルを100とする)



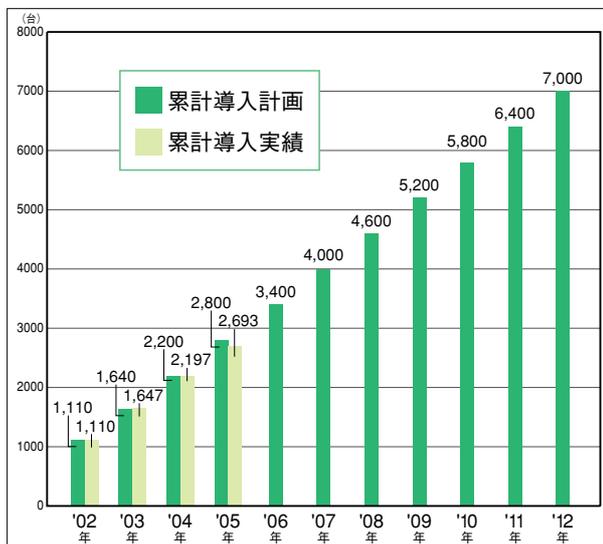
NO_x・・・Nitrogen Oxide 窒素酸化物 (光化学スモッグや酸性雨などを引き起こす大気汚染原因物質とされる)
 P M・・・Particulate Matter 粒子状物質 (ぜんそくや気管支炎を引き起こすとされる)

低公害車化を宣言

事業者と京都市とのパートナーシップのもと、グリーン配送を実践し、大気汚染の改善と地球温暖化の防止を目的とした「京都市都心部(まちなか)グリーン配送推進協議会」に佐川急便関西支社が参加しています。

7月には、2006年度中に京都市都心部に配置する58台の車両全てを、天然ガス自動車をはじめとした低公害車に切り替えていくことを宣言しました。

■ 天然ガス自動車導入計画と実績 (2006年3月現在)



「第2回エコプロダクツ大賞」エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞を受賞

12月15日「第2回エコプロダクツ大賞」で佐川急便が推進する天然ガス自動車導入によるグリーン配送に高い評価をいただき「エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞」を受賞しました。



「低公害車普及大賞」を2年連続で受賞

関東ブロック低公害車導入促進協議会が主催する「低公害車普及大賞」において、天然ガス自動車の積極的導入や自家用天然ガススタンドの設置が評価され、佐川急便が2年連続で受賞しました。



環境負荷を少なくする輸送手段の選択 (モーダルシフトの推進)

環境負荷の小さい鉄道や船舶などへ輸送手段を切り替え、複合的に組み合わせて物資を輸送する手段を「モーダルシフト」といいます。佐川急便では、トラックによる幹線輸送を鉄道輸送や海上輸送へと切り替え、環境負荷を低減しています。

また、国内幹線輸送の交通量が最も多く環境負荷の大きい東京-大阪間で2004年3月から電車型特急コンテナ列車「スーパーレールカーゴ」の運行を開始し、大型トラックによる幹線輸送を大幅に削減しています。

2005年度のトラック輸送削減台数

	年間減便数 (10t換算) (台)	CO ₂ 削減量 (t-CO ₂)
スーパーレールカーゴ	16,115	12,060
鉄道輸送 (スーパーレールカーゴ以外)	26,059	46,099
フェリー輸送	38,847	17,204
合計	81,021	75,363

国土交通省出典：貨物輸送機関の二酸化炭素排出原単位（2001年度）より算出

日本初の電車型特急コンテナ列車 「スーパーレールカーゴ」



上：スーパーレールカーゴ
右：コンテナの積み降ろしをするトップリフター

スーパーレールカーゴは、毎日深夜に16両編成（28コンテナ）の列車を東京-大阪間で上り下り各1本を運行しています。これは、10tトラック56台分に相当し、大幅なCO₂削減を実現しています。

従来の貨物列車の枠を超えた性能

①最高時速130km/hを実現

編成車両の両端に駆動モーターを備えた動力車を2両ずつ配置する動力分散方式により、加速・減速性能の向上を実現しました。

②スムーズな貨物の積み降ろしを実現

31f専用コンテナを開発したことにより、コンテナ積載作業のスムーズ化を実現し、輸送時間の短縮につながっています。

③安全性と信頼性の向上を実現

旅客電車で使用されている加速装置やブレーキ装置、駆動制御装置など最新の技術を採用し、高い安全性を確保しました。

スーパーレールカーゴに対する 外部からの評価

佐川急便のモーダルシフト推進のシンボルであるスーパーレールカーゴは、「平成16年度エコプロダクツ大賞」での国土交通大臣賞受賞をはじめ、数々の評価をいただいています。

2005年度もその性能・活用方法・効果が認められ、高い評価をいただきました。

「第6回物流環境大賞」 物流環境負荷軽減技術開発賞



「ATCグリーンエコプラザ（環境ビジネス優秀賞）」



フェリー輸送によるモーダルシフトの実施

環境負荷の小さい物流体系の構築を目指し、関西一九州間の陸上輸送を海上輸送へ切り替えるフェリー輸送によるモーダルシフトの実証実験を(株)名門大洋フェリー、フェリックス物流(株)と共同で行いました。

これまで陸上輸送していた車両を大型化し、フェリーを活用した海上輸送へ切り替えることで、CO₂排出量の削減を実現させています。また、長距離運転による陸上輸送が減少することから、車両事故防止や長距離運転による長時間労働などの労務問題の解消にもつながっています。

佐川流通センターにより輸送回数を軽減

佐川流通センター(SRC)は、お客様の商品の入荷から値付け、検品、梱包、出荷という一連の流れを1ヶ所に集約し、トータルにサポートする機能を持っています。一元管理による合理化を実現し、在庫管理を徹底することができます。また、出荷までの全行程を1ヶ所で行うことから、輸送回数を減らし、輸送に係る環境負荷の低減につながっています。

2006年3月現在、SRC機能を持った施設は全国に59ヶ所あり、2,200を超えるお客様のCO₂排出量削減に貢献しています。



サービスセンターの設置

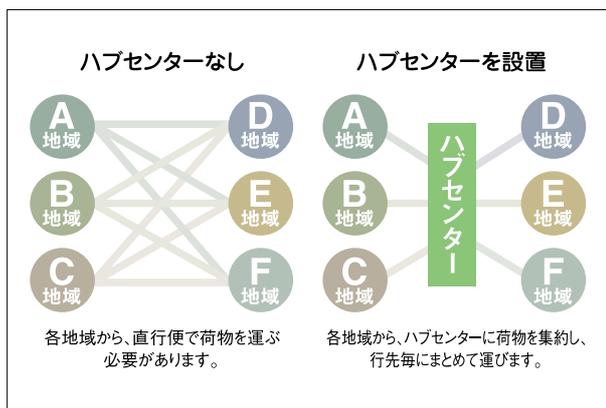
大都市圏を中心に交通量が多く、駐車スペースが少ない地域では、配送車両を持たないサービスセンターを設けて、台車を用いた集荷・配達を行っています。これにより、交通渋滞の解消のほか、駐車場を探すための不要な走行や燃料消費を抑えることができます。2006年3月現在、全国で103ヶ所のサービスセンターを展開しており、2006年度においても70店舗の展開を予定しています。



東京都千代田区のサービスセンター

ハブセンターによる輸送効率化の実現

佐川急便では、2006年2月に自社最大級の貨物処理能力を誇る「Tokyoビッグベイ」を新設しました。既存の西日本ハブセンター、中部ハブセンター、久喜センターに加え、4ヶ所目のハブセンターとなり、輸送トラックの積載率向上と効率的な車両運行を実現しています。



西日本ハブセンター



中部ハブセンター



久喜センター



Tokyoビッグベイ

ステークホルダーの声



ミズノ株式会社
法人営業部
部長 齊藤 隆様

私たちは環境負荷の少ない商品開発に取り組んでおり、資材調達から商品のお届けにいたるまでの物流も商品の一部と捉えています。物流分野における環境負荷低減に取り組む佐川急便を利用することで、私たちの商品は本当の意味での環境に配慮された商品となっています。

車両に関する環境配慮

佐川ギャラクシーモーターズでは、環境に配慮した「ECO車体」の開発と使用済み車体のリサイクルに取り組んでいます。

ECO車体の開発

ECO車体では、ボディーの内装材として使用しているボードに、カップめんの容器の製造時に発生する廃材を100%使用しています。これにより年間で^{*}約160トンの木材の使用量を削減しています。

また、車体の断熱材には、車体解体時にフロンガスを大気中に放出しないノンフロン発泡断熱材を使用しています。この断熱材は非常に優れた断熱性能を持っているため、夏場などボディー内の温度変化を抑えることができ、ドライバーの作業環境も大きく改善されています。

佐川急便では、現在このECO車体を、冷凍・冷蔵の「ECO車体クール便BOX」と「ECO車体ドライ」に導入しており、累計で3,529台（2005年度導入台数は1,194台）導入しています。

^{*}年間2,500台架装時



ECO車体を使用したトラック ECO車体のボード材料

		ECO車体	導入効果
素 材	内装材	100%リサイクル素材の再生ポリスチレンボード	木材を使用しないことで森林保護に配慮
	断熱材	フロンガスの全く含まれない断熱材“フェノールフォーム”	フロンガスを発生させず地球温暖化防止に配慮
	接着剤	燃焼時に有毒ガス（シアン化水素ガス）が発生しない“変性シリコン接着剤”	大気汚染の防止
	リサイクル	処理困難剤の利用低減により容易リサイクルを考慮したボディー	リサイクル性の向上
庫内作業環境	庫内照度	内装材が白いため、反射率が高く明るい	作業環境の向上
外観・デザイン		外観にリベットやボルトが一切ない	美観の向上 都市環境への調和
	メンテナンス性	傷補修	有機溶剤に強くパテ補修が可能
パネル交換		リベット特殊構造への対応が不要 各面体独自の脱着が可能	作業時間短縮 メンテナンス性向上
強度・耐久性		断熱材単体では強度面で劣るが、独自の接着技術と構造で解決	従来と同等の強度と耐久性を保持
安全性		ピッキング対応型のキーシリンダー	盗難防止で安全性向上

使用済み車体のリサイクル

佐川急便で使用済みとなった車体は、グループ会社の佐川ギャラクシーモーターズにて適切に処理され、リサイクルしています。

断熱材・フロンガス

使用期間を過ぎた車両のうち、今後も使用可能な車両は、海外へ輸出しています。

また、劣化が著しく、使用不能な車両については、使用可能な商品の再利用（パーツリサイクル）を行います。なお、解体処理の際に発生するエアコン用フロンガスについては、確実に回収し破壊処理を行っています。

（佐川ギャラクシーモーターズでは2005年度は、100.85kg回収しています。）

廃タイヤ

使用することが出来なくなったタイヤは、最終処分業者によって加工利用・熱利用・原型利用などのリサイクルを行います。

（2005年度廃タイヤ回収本数は、^{*}72,432本でした。）

^{*}当該期間における新規タイヤ購入本数をもって廃タイヤ本数としています。

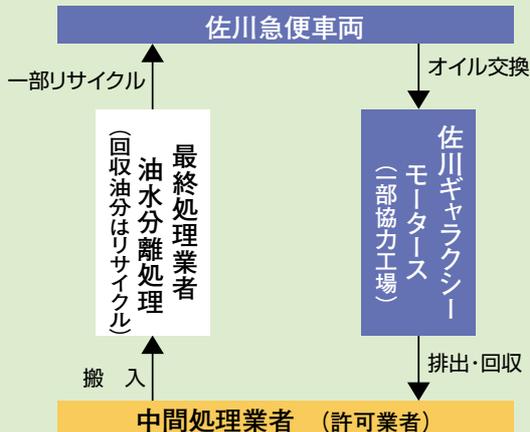
車両エンジンオイル

車両のオイル交換は、佐川ギャラクシーモーターズと一部協力工場で行っています。

中間処理業者が回収、処理した後、最終処理業者において油水分離処理が行われます。一部の油分はリサイクルにまわります。

（2005年度のリサイクル量は、343,801リットルでした。）

車両エンジンオイルの廃油処理について



施設における環境配慮

全国に展開する佐川急便営業店施設には、環境保全に配慮したさまざまな工夫をしています。

新設店の建設基準を策定

佐川急便では、「人・地球・環境への負荷の低減」をテーマに、流通施設のあるべき姿を実現するための独自の建設基準（モジュール）を策定しています。

新設店の建設基準（モジュール）

①経済性（ローコスト化）

建設・管理・運用の面において作業効率の向上とローコスト化を重視した施設を目指す

②社会性（国際情勢の取り込み）

環境への負荷を減らし、社会への責任を果たしながら、企業PRを織り込んだ地域貢献・地域共生を実現する施設を目指す

③人間性（働きやすさの追求）

お客様の安心とサービスの充実を図るとともに、安全でステイタスの高い施設を目指す

2005年度に建設された営業店では以下の環境配慮施設及び設備を導入しています

	省エネルギー設計 照明効果による 自然光を利用した	太陽光発電システムの 導入	廃棄物発生抑制と分別 準拠した	建設リサイクル法に 準拠した	騒音に配慮した 搬送設備やスピーカーの 設置
八王子店	○	○	○	○	○
習志野店	○	○	○	○	○
羽生店	○	○	○	○	○
恵那店	○		○	○	○
伊勢店	○		○	○	○
八幡店		○	○	○	○
須崎店			○	○	○
Tokyo ビッグベイ			○	○	○

その他 ●八王子店に防音壁を設置 ●八幡店に遮光フェンスを設置

太陽光発電システム

発電時にCO₂やその他の有害物質を全く出さない太陽光発電システムの導入を2003年度から実施しており、2005年度は八王子店、習志野店、羽生店、八幡店に導入し、現在合わせて9ヶ所で稼働しています。

最大で20kwの電気を発電し、その運転状況を来店されるお客様にもご覧いただけるよう、お荷物受け渡し場所の横に表示パネルを設置しています。



太陽光発電と表示パネル

騒音対策

佐川急便の営業店では、近隣への環境配慮として、騒音対策を行っています。特に荷捌場では、荷物を搬送するためのフリーローラーに、樹脂ローラーを採用しています。また、構内の業務



新設店モジュールで建設された伊勢店

放送に使用するスピーカーなどの放送機器は、低音スピーカーを内部に向けて設置することにより、外部への騒音を低減しています。

循環型社会における総合物流企業の役割

循環型社会の実現に向けて総合物流企業が担う役割は大変重要です。製品の消費から再生へのプロセスを支援し、省資源、リサイクルへとつながる静脈物流に取り組んでいます。

製品ライフサイクルの循環（静脈物流）

従来、製品ライフサイクルは、生産→消費を繰り返すだけのものでした。この流れを「動脈物流」といい、これに対し、使用済みの製品を新たに資源化するまでの流れを「静脈物流」といいます。

人間の体が動脈—静脈による血液循環で維持されているのと同じように、地球環境を維持するためにも資源を循環させる仕組みづくりが重要となります。佐川急便は、製品ライフサイクルの循環、すなわち資源の循環を担う総合物流企業として「静脈物流」に取り組んでいます。

「佐川パソコン便」を開発

佐川急便では、業界で初めて3Rに対応した新サービス「佐川パソコン便」を10月1日からスタートしました。パソコン修理の際に繰り返し使用することが出来る空気緩衝材と専用外箱を組み合わせた「SAGAWA soft air package」を使用してパソコンメーカーとユーザーとの輸送を行います。オリジナル梱包資材「SAGAWA soft air package」は燃やしても有毒ガスを発生させないポリエチレンラミネートシートを使用しており、また耐用期間



佐川パソコン便

終了後には粉碎し（バックル部分は除く）、建築資材等へリサイクルします。

今後は、パソコン以外の精密機器の修理回収輸送にも幅広く対応していきたいと考えています。

「佐川グリーンメール」をスタート

2006年3月、冊子などの開封口に汚さず簡単にはがすことが出来る特殊なテープと専用の宛名ラベルを貼るだけのメールングサービス「佐川グリーンメール」をスタートしました。

通常のA4サイズの封筒で送るのに比べ、1冊あたり約13gの包装資材の削減となります。仮に、毎月10,000冊の出荷がある場合、1年間で約1,560kgの包装資材の削減



簡単にはがせる特殊テープ

が可能となります。



発送イメージ

家電リサイクル回収品の運搬

佐川急便では、「家電リサイクル法」（2001年4月1日施行）により、回収が義務付けられている^{*}家電製品のリサイクルを支援するために、家電メーカーからの依頼を受けて近畿・中部・四国の佐川急便の営業店24ヶ所が指定引取場所となり、再商品化などの施設へ搬送業務を行っています。

6月7日には、中国で環境問題に取り組む国家発展改革委員会が日本での家電リサイクルのインフラ視察の一環として、佐川急便千里店（大阪府）を見学されました。「廃家電の排出量に対する人員や運用上の問題点は何か?」「中国は良質な中古品の集約・選別をし、リユースをするために運用したいのだが」など、具体的な質問や意見があがり、家電リサイクルの運用に高い関心を示していただきました。

^{*}洗濯機・冷蔵庫・冷凍庫・エアコン・テレビ（2006年3月現在）

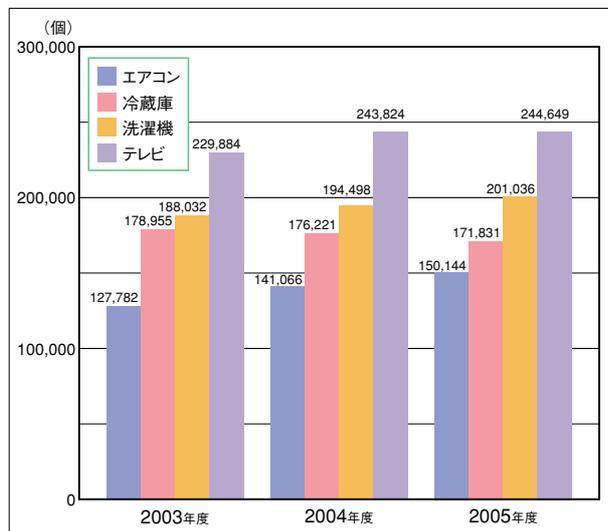


家電リサイクル品運搬の様子



中国国家発展改革委員会視察の様子

家電リサイクル取り扱い実績（2006年3月現在）



その他の環境配慮

環境先進企業として、環境保全のさまざまな取り組みを行うとともに、環境への負荷が少ない商品の購入（グリーン購入）を推進しています。

「排出物管理規程」を制定

限られた資源を有効に活用するためには、事業活動を行う上で生じる排出物の処理を適切に行うことが不可欠です。

事業活動に伴って生じる排出物の管理方法、処理方法を定めた「排出物管理規程」を制定し、「廃棄物管理システム」の運用を開始しました。このシステムを利用して、排出方法・排出量・処理費用を管理し、グループ全体の現状把握を行っていきます。

「排出物管理規程」制定の目的

- ①法令遵守に基づき適切な処理を行う
- ②排出物の分別を行い、循環型社会を築く

配達済み送り状のリサイクル

佐川急便では、毎日大量の配達済み送り状などが全国で発生します。これらは全てグループ会社である佐川コンピューター・システムの関東・関西の2拠点に集められ、製紙会社の溶解工場へ持ち込み再利用しています。2005年度は、約1,750tをダンボールや紙の原材料としてリサイクルしました。

水質汚染・土壌汚染の防止対策

水質汚染や土壌汚染は、近隣の住民の方々だけでなく、生態系にも大きな影響を与えます。

佐川急便では、自社で所有する燃料用の地下貯蔵タンクや地下に敷設している配管の異常、自社内にある給油所・厨房内の油水分離槽についても専門業者による点検や消防法など法規に基づいた点検・清掃作業や廃棄物処理を行っています。

「第8回グリーン購入大賞」審査員特別賞を受賞

2006年2月24日「第8回グリーン購入大賞」でペットボトルをリサイクルしたユニフォームの



購入や環境に配慮した輸送システムの構築とお客様へのご提案など、環境保全活動に高い評価をいただきました。

グリーン購入の推進

環境への負荷が少ない製品やサービスを優先的に購入することを「グリーン購入」といいます。佐川急便では、環境負荷を減らすために、このグリーン購入を推進しています。

従業員が着用しているユニフォームは、ペットボトルを再利用した再生ポリエステルから作られており、エコマークの認定を受けています。2005年度に製造したユニフォームは16万4千着で、ペットボトルに換算すると約48万本を再利用したことになります。

また、社内で使用する文房具類などは、購買管理システムから発注する「グリーン購入適合品」や「エコマーク認定商品」を優先的に購入しています。



環境に配慮された事務用品とユニフォーム

■エコユニフォームができるまで



人の尊重と人材の活用

働く人々の尊厳を守り、意欲ある者には機会を与え、一人ひとりの多彩な能力を伸ばす人材育成に取り組む方針のもと、SGホールディングスグループは従業員とともに成長する企業でありたいと考えています。

人事方針

佐川急便のパート・アルバイトを含む全従業員は33,649人（2006年3月20日現在）です。人の手を介してお客様の「真心」を運ぶ佐川急便にとって、人材は何にも代え難い大切な財産であり、まさに人という「意志」を持った資源に支えられています。

お客様に安心と信頼を提供し、コーポレートブランドを確立させる源泉となるのは、一人ひとりの従業員です。企業の財産である「人材」を尊重し、組織力の活性化に向けて、4つの制度を確立しています。

- 公正かつ納得性の高い評価制度
- 従業員のやる気を向上させる処遇制度
- 人材の最適配置を推進する制度
- 従業員の能力を向上させる制度

この制度により、有能な人材を確保し、定着させ、「人」を通してグループ全体を発展させる仕組みづくりを行っています。

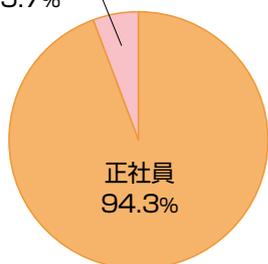
また、労務対策の強化として「過重労働防止」「労働災害の半減」の実現により、法令に準拠した従業員一人ひとりが安心できる職場環境を目指しています。

労働力の内訳

佐川急便では、長期的な視点からプロとしての自覚に基づいた労働力の提供とその成果に期待しています。全従業員のうち94.3%が正社員として活躍していることが特徴です。また、正社員のうち78.1%が営業職となっており、営業力が大きな原動力となっています。

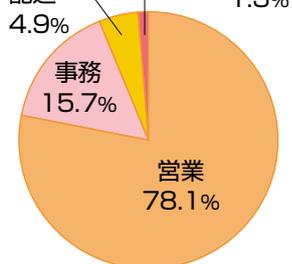
従業員の内訳

パート・アルバイト
5.7%



正社員の内訳

支社長・部長・店長
1.3%



※派遣委託を除く

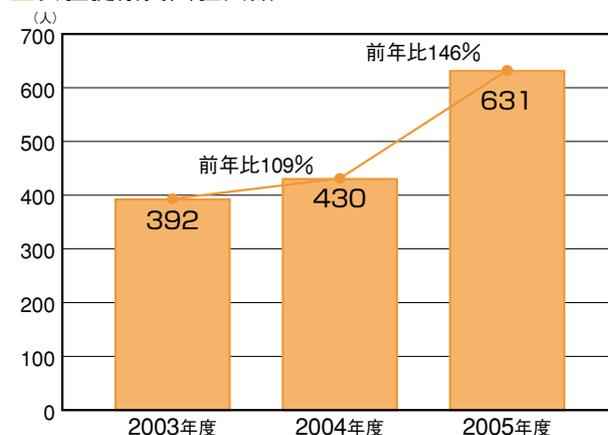
雇用の促進

従来の「男性の職場」というイメージが強い物流業からの脱却を図り、新たな総合物流企業への進化を目指す当グループにとって、女性の力は不可欠です。特に佐川急便では、女性が活躍できる新たな職域の拡大に取り組んでおり、ドライバー職やサービスセンター職においても女性従業員を採用しています。

2005年度の女性従業員の採用は、前年比146%と大幅な伸びとなっており、女性特有の「細やかな気配り」、「応対の丁寧さ」がお客様よりご好評を頂いていることから、今後は営業系職も女性が活躍できるステージと捉え、積極的に採用を促進していきます。

また、障害者の雇用にも目的を持って取り組んでいます。佐川急便では、特定法人での集団雇用ではなく、「同じ職場の仲間として業務に取り組み、共に汗を流し、苦勞を分かち合い、目標達成の喜びを共有する」ことを目指しています。このことが真の障害者自立社会を形成するという企業ポリシーであり、今後も共に成長できる雇用促進への取り組みを進めていきます。

女性従業員入社人数



九州ブロック:九州クールレディース

九州ブロックの飛脚クール便の2005年度の実績の伸長には、九州クールレディースの活躍が大きく貢献しています。

(前年度取扱実績比107.5%)



人材育成方針

私たちSGホールディングスグループにとって「人材」の育成・活用は健全な事業運営の生命線です。お客様はもちろん、地域の人々や国際社会から必要とされる存在であるためには、従業員一人ひとりが、仕事を通じて自己の成長を実感し、やりがいを感じることでできる環境が欠かせません。

■人材育成制度の基本方針

すべての人々に『選ばれる』ために、全国統一の教育体系を整備しています。これにより輸送の品質を維持するとともに、お客様に質の高いサービスを提供できる人材を計画的に育てることができま。また、カリキュラムは常にメンテナンスを加え、戦略や商品、事業環境の変化に応じた最新の情報を伝えるよう工夫しています。さらに、モチベーションを高めるさまざまな仕組みを取り入れ、自ら努力し能力を発揮できる継続的な教育を実施しています。

■2005年度研修実績

(単位:人)

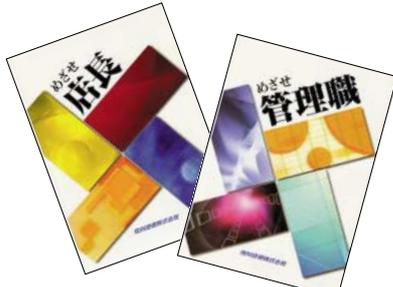
海外研修 アジア	77
店長候補養成講座	63
店長初任研修	71
営業係長基礎研修	441
営業管理職レベルアップ研修	314
営業係長レベルアップ研修	198
カスタマーサービス係長基礎研修	64
カスタマーサービス係長レベルアップ研修	17
安全推進係長基礎研修	144
ロジスティクス実践スクール	33

(単位:人)

	受験者数	合格者数
めざせ店長	2,127	433
めざせ管理職	3,381	483



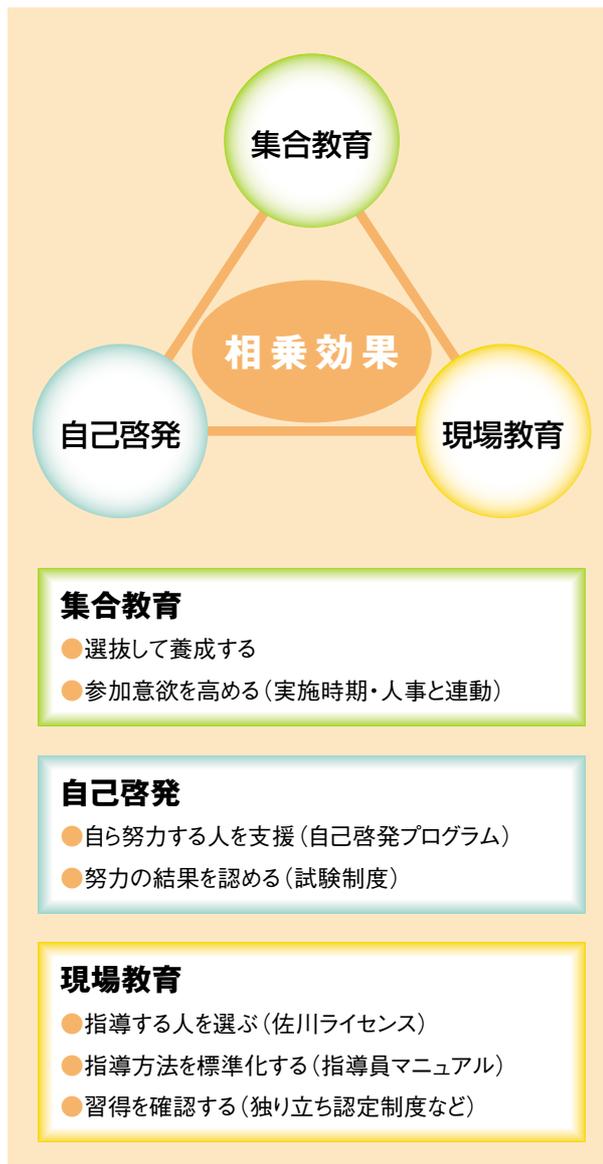
研修の様子



研修用テキスト

■人材育成の効果を高める仕組み

人材育成の効果を高めるためには、集合教育・現場教育・自己啓発の相乗効果が重要です。集合教育で指導すべき内容、現場教育で指導すべき業務、自ら学ぶべきもの、またその支援の組み合わせによって、教育効果を高めています。



働きやすい職場づくり

従業員一人ひとりが家族と共に健康で幸せに暮らせるよう、職場の安全を確保し、従業員の心と体への配慮を十分に行うことにより、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

安全な職場の構築を目指して

従業員が安全に安心して働ける労働環境の整備を推進し、「労働災害ゼロ」を目指しています。

職場における従業員の安全を確保することは、従業員及びその家族の幸せ、またお客様へのサービス品質の維持・向上の観点からも重要な課題です。具体的な施策として従来の労働災害の傾向を検証し、安全・衛生対策を全社的に改め、新たな計画に基づき数値設定を行いました。



「ストップ・ザ・労働災害!」ポスター

2004年度から2006年度までの3ヶ年で「労働災害の半減」を掲げ、その2年目である2005年度は「2004年度抑止目標件数の20%減」を目標として取り組み、達成することができました。

■安全衛生年間計画の策定と実施

佐川急便では、全営業店に安全衛生委員会を設置し、安全衛生水準の向上に努めています。

安全・衛生年間計画を策定し、その計画に基づき、さまざまな取り組みを毎月実施しており、その一例として、安全衛生教育マニュアルや教育ビデオの作成による教育面の統一化や、安全衛生に関するポスターを全営業店に配布・掲示するなど、安全な職場づくりに向けた意識の高揚を図っています。

■安全靴の支給

2004年度より、労働災害事故の未然防止措置の一環として、通気性・軽量化・耐滑性に優れた独自の安全靴を開発し、ドライバーや構内作業員に支給しています。これにより、従業員の安全を確保するとともに、安全意識の向上を図っています。



2006年モデル安全靴

受動喫煙防止

2003年5月1日より、厚生労働省より受動喫煙を防止する措置を講ずる指導「健康増進法」の施行に伴い、全社的な喫煙ルールを定め、受動喫煙防止に取り組んでいます。2005年度は休憩場所以外を「原則禁煙」とし、休憩場所においても喫煙・禁煙を区切るなど、受動喫煙の防止を推進しています。



禁煙場所掲示のポスター

心と体の健康管理体制の構築

■健康診断

従業員の健康状況を把握し、適切な健康管理を行っていくために、法定項目の他に独自の項目を設け、健康の維持促進に努めています。健康診断の実施後、2次健診の勧奨はもとより、産業医や保健師による有所見者への意見・指導を行い、個別の健康管理を推進しています。

これらの諸活動を実施するにあたっては、個人情報のなかでも特に厳格に保護されるべき情報であることを認識し、取り扱いには細心の注意を払っています。

■メンタルヘルスケアの促進

職場におけるメンタルヘルスの重要性を認識し、各種研修を通してメンタルヘルスケアの教育を実施しています。2004年3月21日より、従業員とその配偶者・扶養家族を対象に「佐川急便グループ健康ダイヤル24（メンタルヘルスサポート）」を開設しています。外部の専門機関による相談窓口を設け、健康・医療・介護・育児・医療機関の紹介といった家庭生活相談から、仕事や人間関係などの悩み・ストレス・体調不良に至るまで、心と体の健康に関するあらゆる相談に、365日・24時間フリーダイヤルで、医師・臨床心理士などの専門家が対応しています。

また、希望者には、全国各地のカウンセリングセンターにて、専門カウンセラーによるカウンセリングを実施しています。



「健康ダイヤル24」ポスター

2006年4月1日より携帯電話からの利用も可能となり、幅広く従業員・家族の声に耳を傾け、生活環境の向上に努めています。

健康への意識づくり

健康管理の重要性を全従業員に認識させることを目的に、月刊の社内報「飛脚」に「健保だより」のコーナーを設け、毎月さまざまな健康管理についての情報を掲載しています。また、社内報ビデオ「ふれあい」により健康への注意を呼びかけています。

その他に、佐川急便グループ健康保険組合より、健康管理の機関誌「さわやか」を従業員の家庭に年4回送付するなど、情報の提供を推進しています。



健康管理の機関誌「さわやか」

「健保だより」

何でも相談室の設置

職場環境の改善（労務問題の改善等の諸問題）に取り組むために「何でも相談室（一般用・女性専用）」を社内に設置しています。

電話・メール・手紙など匿名が可能な相談に応じ、誰もが安心して働くことができる職場環境の維持・改善に努めています。

福利厚生

保養所

SGホールディングスグループでは、従業員の日頃の労をねぎらい、心身ともにリフレッシュできる施設として、国内外に保養所を設けています。

また、保養所以外にも、契約リゾート施設を提供し、家族とのコミュニケーションの場としても利用されています。



佐川急便守山パーク

社内イベントの開催

SGホールディングスグループでは、グループ各社または事業所、地域ごとにさまざまなイベントを開催し、従業員、家族の親睦を深めています。中でも、毎年5月の初旬に開催している「SGホールディングスグループスポーツフェスティバル」は、全グループを挙げての一大イベントとして、健康増進を目的に実施しています。



全国各地の予選を勝ち抜いた野球・サッカー・綱引・ソフトボールのチームが集結し、鍛えた肉体と技を競い合うことによって、選手・観客に感動を与えてくれます。



佐川急便守山パークで開催されるSGホールディングスグループスポーツフェスティバル



サービス向上への取り組み

社会から求められるニーズを的確に捉え、高品質、高付加価値のサービス提供に努めています。

宅配便に関する意識調査

サービス向上への取り組みとして、一般の宅配便利用者の方を対象に「宅配便に関する意識調査」を実施しました。通信販売市場の伸び等の影響もあり、年々その規模を拡大する宅配便市場に対するさまざまな回答をいただきました。

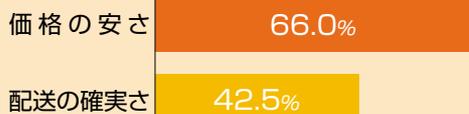
中でも、時間帯指定サービスの利用頻度が最も高く、また「価格の安さ」、「配送の確実さ」が求められている点からも、事業者は安価で高品質なサービスを提供しなければ、社会からの要望に応えていないことになります。

SGホールディングスグループは、そのような顧客ニーズにいち早く対応し、求められるものを求められる形で提供し、社会への貢献に努めています。

調査時期：2005年6月

対象：宅配便利用者、全国の20代～50代の男女
(男性200人、女性200人)

宅配便会社を選ぶポイントは？



お客様の声に対応

佐川急便では、お客様からの声をいただく「電話対応」を第二の営業と位置付け、スピーディーかつ正確な対応を目指しています。

現在、電話対応に携わる従業員は全国で3,454名おり、日々何万本という電話すべてに気持ちを込めたきめ細かいサービスを行うことで、お客様の期待を裏切ることのないよう、また、電話対応を通じてお客様と信頼関係を築くことが出来るよう、取り組んでいます。

2001年からは、従業員のモチベーションの維持向上や電話対応技術の向上を目的として、社内電話対応コンクール地区大会、全国大会を開催しています。全国大会という具体的な目標を設定することで、一人ひとりが自発的にスキルアップに取り組んでいます。

これからも、すべての人々から選ばれ、信頼されるべく、従業員の育成、人的品質の向上に取り組んでいきます。

電話対応コンクール

佐川急便では、お客様とセールスドライバーの架け橋となるカスタマーサービス課員が、的確で真心のこもった電話対応を心がけ、更なる顧客満足度の向上を目指しています。

12月には、(財)日本電信電話ユーザ協会が主催する「第44回電話対応(CTI)コンクール全国大会」に9名が出場(全出場者6,719名)し、関東支社より出場した2名が入賞を果たしました。



入賞者のコメント



優勝 関東支社
長島 裕子



優秀賞 関東支社
村田 裕美

日頃、電話対応ではどういった点を心掛けていますか？

(長島)
「自分の顔の表情を意識して、気持ちを乗せることを心掛けて電話対応をしています。表情のあるなしで、声が変わるのは試してみるとすぐに実感できます。」

(村田)
「お客様の表情を思い浮かべ、実際に、お会いしているような感覚で対応しています。また、電話を掛けてくださったことへの感謝を忘れないようにしています。」

今後、今回の入賞の経験をどのように生かしていきたいですか？

(長島)
「目標を持つこと、そしてそれに挑戦することの大切さを伝えていきたいです。」

(村田)
「精神的に強くなれたので、後輩の悩みなどを受け止めていきたいと思います。」

動く営業店

2006年2月より、次世代集配車として、「営業店機能」「安全・運行管理機能」を搭載した特別仕様車両（ワンボックスタイプ）を全国で10台導入しています。

通信機能を搭載した車載パソコンにより、車内から営業店の業務システムにアクセスすることが可能となりました。これにより荷物に関する最新情報などを営業店に確認することなく即座にお客様にお答えすることができます。

安全面では、すでに既存車両でも導入している「セーフティレコーダ」を搭載し、セールスドライバーの安全運転意識の向上を図るとともに、前方・後方および左後方確認用のCCDカメラの映像から死角の確認を可能としました。さらに荷台後部には、集配車両で初となる、自動サイズ・重量計測器を搭載し、荷物を重量計に載せるだけで正確なサイズ（たて・よこ・高さの3辺計）と重量を瞬時に計算し、セールスドライバーがメジャーで計測していた作業を軽減します。また、車両の左後方には、広告スクリーンを装備し、駐車時等には佐川急便のコマーシャルや最新情報を放映しています。その他にも、集荷・不在再配達連絡と連動したカーナビゲーションシステム、災害時対策として、非常照明、非常電源、デジタル無線も搭載しています。



広告スクリーン装備



非常照明・非常電源・デジタル無線搭載



自動サイズ・重量計測器搭載

佐川セキュリティパッケージ

個人情報の漏洩が社会問題へと発展し、個人情報保護法が施行される等、今や企業にとって個人情報を含む機密情報の取り扱いには細心の注意を払うことが必然の義務となっています。そのため、これまで以上に輸送の安全性、機密性を確保したサービスへのニーズが高まったことから、佐川急便では、ダイヤルロック式の専用ケースを開発しました。内部に装備されたPHS端末によりリアルタイムに位置情報が送信され、荷物の現在位置を監視できるセキュリティ輸送サービス「佐川セキュリティパッケージ」を全国展開し、社会へ安心と信頼を提供しています。



ダイヤルロックによるセキュリティ

品質向上への取り組み

佐川急便では、お客様のニーズに応えるためにサービス品質の向上に取り組んでいます。貨物事故責任率1/20,000（発送個数2万個につき1件）などの厳しい15項目の基準を設け、お客様に満足



いただける質の高いサービスを提供している営業店に対し、独自の「クオリティーマーク」の認定をしています。

2006年3月現在、106店の営業店が認定されています。

また、年間を通じ、品質面に優れた営業店の表彰制度を設けるなど、より質の高いサービスを提供するための明確な目標を設定しています。

社会貢献活動

豊かで健康な生活、安心できる社会の実現に向け、社会や地域との共生を意識し、社会より受けた恩恵をさまざまな形で還元する取り組みを行っています。

産学連携 (ホスピタル・ロジスティクス)

佐川急便では、2004年、東京大学医学部附属病院22世紀医療センター内に、寄附講座「ホスピタル・ロジスティクス講座」を開設しました。

常に人やモノが動いている病院の中で、病院スタッフ、物流に関する学識者、物流を実践する物流事業者の三者の協働により、同じ課題に向き合いながら各々の知識や経験を活かし、産学連携の共同研究により病院内における物流のあり方について研究しています。

2005年2月28日より試行している※「手ぶら入退院パック」は、入院患者様より好評で、順調にご利用いただいています。

※「手ぶら入退院パック」:入退院時の家庭と病院間の荷物の取次ぎを行うサービスです。

また、10月より患者様が院内薬局で受け取った医薬品を自宅までお届けする「お薬宅配パック」の試行も開始しています。

今後も医薬品や医療機器の効率的な供給方法や、新たな物流サービスの提供方法を検討し、社会より求められるサービスを提供することを目的として、研究を進めています。



「手ぶら入退院パック」パンフレット



「お薬宅配パック」パンフレット



サービスカウンター

「ホスピタル・ロジスティクス講座」での研究風景

詳しくはホスピタル・ロジスティクス講座のホームページをご覧ください。

<http://hpt-logi.umin.jp/>

社会見学と職場体験学習

佐川急便では、小中学生の「社会見学」や「職場体験学習」を支援しています。

小学生の社会見学では、大はしゃぎの子どもたちから、「トラックはどこから来るの？」

「何を運んでいるの?」など、子供らしい素朴な質問が投げかけられ、好奇心旺盛な子供たちと一緒に楽しく学んでいます。

また、中学生のカリキュラムである職場体験学習では、各営業店に多くの地元中学生たちが社会勉強として物流の仕組みやセールスドライバーの仕事を実際に体験し、学習しています。小学生とは違い、真剣な質問が多く寄せられ、教える側にとっても物流



小学生の社会見学



中学生の職場体験学習

業務が担う役割の重要性を改めて実感できる場となっています。

今後も次世代を担う子どもたちと共に学び、物流の仕組みや働くことの大切さを伝えていきたいと考えています。

募金活動への協力

青い羽根募金は、(社)日本水難救済会などが主催の募金活動で、海で遭難した人々の救助活動にあたるボランティアの方々に支援するものです。国土交通省が主催の「海の月間」における全国行事の一環として、従業員が同募金のシンボルである青い羽根をつけて業務を行っています。

モーダルシフトなどにおいて海上輸送との関わりをもつ企業として2001年より毎年参加しています。



青い羽根募金シンボル

災害時に備えた物流のあり方

大規模災害による物流の途絶は、ライフラインの途絶とも言える事態を引き起こします。近年、自然災害頻度が増している現状を踏まえ、7月に開催された「災害時の物流を考える」シンポジウムに参加しました。

総合物流企業として、災害などの緊急事態に備えたシステム作りにも努め、人々が安心して暮らせる社会の構築を目指します。



シンポジウムの様子

情報開示とコミュニケーション

SGホールディングスグループでは、各事業会社のWebサイトを通して、最新ニュースや新サービス、各種取り組みの紹介をタイムリーにお届けしています。



SGホールディングスWebサイト
※URL <http://www.sg-hldgs.co.jp/>

スポーツイベント等への協賛

■北京国際駅伝

スポーツを通じた国際親善への貢献を目的として、「北京国際駅伝」に1990年から協賛してきました。佐川急便は2005年までこの大会に協賛し、第20回大会においては長年の貢献に対し、主催者である北京市人民対外友好協会より表彰をいただきました。



北京国際駅伝の様子

■青梅マラソン

40回の節目を迎えた日本を代表するロードレースに協賛しています。



青梅マラソンで力走する市民ランナー

■守山ハーフマラソン

佐川急便守山陸上競技場(滋賀県)を発着点とする大会で、1998年から地域共生企業として協賛しています。

■「佐川急便杯」第51回全日本アマチュア本因坊決定戦

招待選手、各都道府県代表選手が参戦する日本の囲碁界を代表する総合棋戦です。

■ゴールデン・ルーキー賞



記念トロフィー

日本プロ野球パシフィック・セントラル両リーグの最優秀新人受賞選手を対象に贈られる特別賞へ協賛しています。受賞選手には、佐川美術館ともゆかりの深い彫刻家の佐藤忠良氏制作によるブロンズ作品(萌える)が贈られました。

■全日本生涯野球大会

「お父さんの甲子園」として中高齢者の予防医学を目的に行われる大会で、1989年の第1回大会から協賛しています。

■中国スーパーリーグ「広東佐川急便卓球クラブ」

佐川急便では、卓球の世界最高峰である中国スーパーリーグ加盟の広東省女子チームにスポンサーとして協賛しています。

この広東省女子チーム「広東佐川急便卓球クラブ」は、日本人選手として活躍する福原愛選手も所属しており、佐川急便はスポンサーとしてチーム・選手をサポートしています。



福原愛選手などをサポート

市場におけるグリーン物流の実現に向けて

第2回SAGAWAステークホルダー・ダイアログを前年に引き続き開催しました。行政関係者、学識者、NPO・NGO、企業、弁護士、ジャーナリストなど39名の方々をお招きし、「市場におけるグリーン物流の実現に向けて」をテーマに活発な意見交換を展開させていただきました。

第2回SAGAWAステークホルダー・ダイアログのテーマについて

今回のテーマである「市場におけるグリーン物流の実現に向けて」は、荷主企業と物流事業者の協力関係の構築を目指して、官民で設立された「グリーン物流パートナーシップ会議」の活動と呼応して、総合物流企業である当グループが「グリーン物流の実現に向けて」の考察を深めようという姿勢から設定しました。

詳しくはグリーン物流パートナーシップ会議のホームページをご覧ください。

<http://www.greenpartnership.jp/>



プレゼンテーションの様子

実施概要

9月30日

- 10:30 ステークホルダー・ダイアログ開会
 - 開会宣言、主催者挨拶、ファンリテーター挨拶、参加者紹介
 - スケジュール説明
- 11:00 施設見学
 - 物流施設の見学
- 13:00 ステークホルダー・ダイアログ・プレゼンテーション
- 13:45 ステークホルダー・ダイアログ・ディスカッション
- 16:40 総括
- 17:00 歓談&コミュニケーション



セーフティ・レコーダ、天然ガス自動車の説明

佐川急便施設見学の概要

大阪コンタクトセンター 見学

- SDIシステム（佐川デリバリーインフォメーションシステム）の説明
- 大阪コンタクトセンターの説明

佐川流通センター見学

- 商品発注から出荷までの流れの説明

家電リサイクル場見学

- 佐川急便の家電リサイクル業務内容の説明
- 廃家電輸送車両の説明

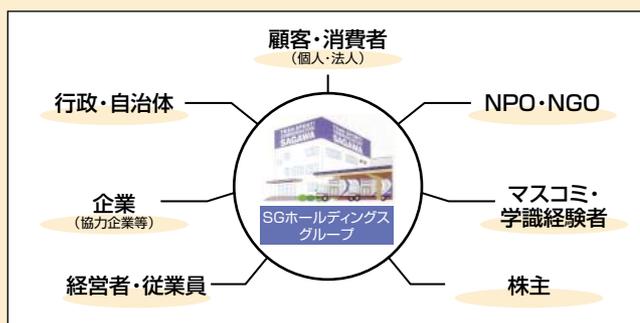
セーフティ・レコーダ、 CNG・AT車の説明

- 天然ガス自動車導入状況
- 天然ガス自動車の特徴
- 安全対策車両、セーフティ・レコーダの説明

SGホールディングスグループを取り巻くステークホルダー

総合物流企業として日常の事業活動をはじめ環境・社会活動を展開する、SGホールディングスグループにとってのステークホルダーには、実にさまざまな方々がいらっしゃいます。

荷物の配送のご依頼をいただくお客様、また配送先のお客様をはじめ、従業員や取引先等の協力企業、行政、NPO・NGO、マスコミ・研究機関等、活動を取り巻く環境に応じて、実に広範囲にわたります。



グリーン物流を進めるための課題解決に向けて

物流事業を取り巻く現状の課題から、今後の目指すべき方向性について、さまざまな意見が出されました。以下はその抜粋です。

● 荷主がグリーン物流を選ぶための判断基準の提示

グリーン物流を今後さらに進めていくためには、荷主企業が環境に配慮した物流の手法を選ぶことが重要となってくるが、現時点では、各物流事業者がどれだけ環境に配慮しているのか、具体的な数値データとして提示することができていないため、荷主側としては基準が無く判断することが難しくなっている。そのため、荷主側が容易に判断することができるように、物流事業者を数値によってランク付けしたり、東京―大阪間などの区間について環境負荷数値のデータ化、またはデータ化するための数値検出方法の早期策定が必要ではないか。しかし、実際の物流においては、中小の事業者が連携して事業を展開しているため、すべてをデータ化することは非常に困難である。

● 顧客のニーズに対応したサービスの提供

現段階では、翌日配送や指定日配送などのサービスが行われているが、消費者マインドの変化により「速さ」を求めないサービスも必要とされており、環境に配慮した手段であればこれまでよりも多少時間やコストがかかってもかまわない。消費者のニーズに対応したサービスの提供が必要ではないか。通常の方法と環境に配慮したものとで、価格差をつけるような工夫も有効だと思う。

● グリーン物流実施によるコスト高、時間がかかることについての理解

物流事業者と荷主企業との関係において、現在、原油高の影響による燃料コストを反映させることができていない。グリーン物流を進めるにあたって、コストが高くなることや、これまでよりも時間がかかることなど、荷主側の理解を得ることが重要である。コストを下げて競争を行っている中で、果たして環境にやさしい物流が、荷主側から選ばれるのか疑問である。

● グリーン物流のイメージアップ戦略の必要性

「荷主は物流事業者を何で選ぶか」を考えたときに、現在では荷主はコストで選ぶといっても過言ではない。コスト以外、特に環境で選んでいる荷主はあまりいない。選んでいただくために、消費者の目に見える形でCO₂の削減をしていく必要がある。「グリーン物流」の良さ、必要性を消費者に広く知ってもらうためにも、グリーン物流の導入により、どれだけのCO₂の削減に貢献することができるかを具体例を挙げて示すことが必要と思われる。「物流履歴をしっかりと開示する」、「わかりやすいマークをつくる」など、工夫が必要ではないか。佐川急便の20,000台のトラックや発送時に使用する送り状を媒体とするなど、佐川急便ならではの取り組みもおもしろいと思う。

● 消費者の意識改革（イノベーション）

環境にやさしい物流、グリーン物流という考え方を実現させていくために、既存の概念にとらわれないライフスタイルに変えていくことも重要。「物を運ばないための仕組みづくり」や「コストではなく環境貢献度合で物流事業者を選ぶ国民運動」、「消費者が環境に優しい製品を求める基盤作り」など、企業活動を進める上で、消費者の意見は非常に重要なものである。特に、生産する製品については、消費者が環境に良いものを嗜好しなければ、企業としては生産することは難しい。また、荷主企業の場合も、企業として環境にやさしい物流を使用するにしても最終的な消費者が、製品へのコスト上乘せに理解を示さなければ、環境にやさしい物流を使用することが難しくなる。最終決定者としての消費者の意識を、どれだけ環境対応へと変革することができるかがグリーン物流の実現にかかっている。

ステークホルダーの声



環境省 大臣官房
廃棄物リサイクル対策部企画課
課長 森本 英香様

昨年に引き続き参加しました。グリーン物流の実現に向けて多くの課題が残っていることを実感しました。その課題をクリアするためには荷主と物流事業者の協力、そして、両者をつなぐ行政の努力が不可欠だと感じております。佐川急便にはこれからもトップランナーとして積極的にチャレンジしてもらいたいと考えています。

5つの財団活動

SGホールディングスグループでは、社会から受けた恩恵に報いるべく、各財団を設立し、社会貢献への取り組みを行っています。

(財) 佐川交通社会財団

～22年の活動を経て、設立の目的を達成～

現代社会の象徴とも言える交通機関の発達は、豊かな社会構築に寄与した反面、交通被災者の増加へとつながりました。

「地域社会の発展に奉仕する」社にもあるこの思いと、長年にわたる社会からの恩恵に報いることを目的として、1984年1月に(財)佐川交通社会財団を設立しました。

これまで多くの交通被災者に対して援護事業を行えたこと、そして多くの研究者の方々に研究開発の意欲と機会を提供できたという実績をもって、設立当初の目的を達成することができました。残余財産約6億円を当財団と類似の目的を持つ(財)交通事故総合分析センター、(社)京都犯罪被害者支援センターに寄附し、22年に及ぶ活動に終止符を打つことになりました。

- 援護給付 総件数1,295件 総額3億3,265万円
- 研究助成 総件数463件 総額10億8,516万円

(財) 佐川留学生奨学会

～次世代を担う留学生の夢を応援～

1986年、東南アジア諸国からの私費外国人留学生を対象に奨学金援助を行い、日本と東南アジア諸国との国際交流と友好親善を目的に設立しました。

2005年度(第20期生)は、全国各大学の推薦を頂いた17名を奨学生として採用しました。



- 累計奨学生：313名
 - 累計奨学金：6億8,670万円
- <http://www.sagawa-ryugakusei.or.jp/>

(財) 佐川国際経済協力会

～アジア各国を佐川急便のトラックが走る～

1986年、アジアの開発途上国に対して、経済発展や友好親善に寄与することを目的に設立しました。中古トラックなど輸送車両の寄贈、また車両整備に関わる技術研修生の受け入れや、講師を派遣し現地研修なども行っています。

2005年度は、ラオスへ中古トラック8台、散水車3台を寄贈し、また、6名の研修生の受け入れを行いました。



- 累計寄付トラック数：3,281台
 - 累計受入車両整備生：90名
- <http://www.sagawa-kokusaikeizai.or.jp/>

(財) 佐川がん研究助成振興財団

～がんの撲滅を目指す～

1989年、がんの基礎研究や応用治療研究等の活動を助成し、医療福祉の向上に寄与することを目的として設立しました。



がん予防の正しい知識や情報を伝える「市民公開講座」を2002年度から毎年開催しており、2006年には「肺がんの最新情報」と題して開催しました。

また2003年度より、「佐川特別研究助成賞」「佐川看護特別研究助成賞」を制定し、がんの研究・医療・看護の発展に顕著な貢献をされた方に、賞状ならびに助成金を授与しています。

2005年度の研究助成は15件、「佐川特別研究助成賞」「佐川看護特別研究助成賞」にはそれぞれ2件に助成しました。

- 累計支給件数：286件
 - 累計支給総額：2億7,900万円
- <http://www.sagawa-gan.or.jp/>

(財) 佐川美術館

～文化と芸術の発展と発信～

1998年、佐川急便創業40周年を記念し、比叡山を望む琵琶湖畔、佐川急便守山パーク(滋賀県守山市)に設立しました。「さまざまな文化事業を通じて芸術・文化の振興と発展をはかる」ことを目的に、年間を通じて所蔵品を公開しています。館内には、シルクロードを描きつづける日本画家の平山郁夫氏と、市井の人間の飾らない美しさを表現する彫刻家の佐藤忠良氏の常設展示室を有し、テーマに沿った内容で所蔵品紹介を行っています。また、年数回さまざまな企画展を開催するとともに、国際シンポジウムや講演会、コンサートの実施にも取り組んでいます。大胆に水を配し、数々の建築賞を受けた建物も来館者より高い評価をいただいています。

佐川急便創業50周年の節目にあたる2007年秋には、「佐川美



© SAGAWA ART MUSEUM

術館「十五代樂吉左衛門館」を新設する予定です。



© SAGAWA ART MUSEUM

- 累計来場者数：578,711名
- <http://www.sagawa-artmuseum.or.jp/>

2005年度のあしあと

実施月			
2005年3月	佐川フィナンシャル株式会社設立 クリーンアップデー実施		
4月	第22回佐川急便グループ幹線輸送全国一斉安全パトロール実施 2005年北京国際駅伝に協賛 産地直送・ギフト発送支援システム「e飛伝産直」新登場		
5月	佐川急便インドネシア株式会社設立 佐川スポーツフェスティバル2005開催 ギャラクシーエアラインズ株式会社設立 佐川急便グリーン運動実施		
6月	「第3回日本環境経営大賞（環境経営優秀賞）」を受賞 第13回佐川急便全国ドライバーコンテスト開催 「エコライフ・フェア2005」に出展 「平成17年度陸運及び観光関係功労者近畿運輸局長表彰」を受賞 「ATCグリーンエコプラザ（環境ビジネス優秀賞）」を受賞 「おおさか環境賞（大賞）」を受賞 「第6回物流環境大賞（物流環境負荷軽減技術開発賞）」を受賞 「さがわの森」（高知県）で環境研修を実施 WWFジャパンと共同でクライメート・セイバーズ・プログラムの経過を記者発表		
7月	ゴミが出ず、再利用可能なオリジナル梱包資材を用いた「佐川バンソコン便」新開発 第7回佐川急便グループ幹線輸送全国一斉ターミナル点検実施 佐川グローバルエクスプレス株式会社設立 【佐川美術館】「彫刻家が描く 佐藤忠良の絵本原画展」開催（7月16日～9月4日） 関東ブロック低公害車導入促進協議会による「低公害車普及大賞」を受賞 京都市都心部（まちなか）グリーン配送推進協議会が取り組む低公害車普及促進運動に賛同 水難救助活動「青い羽根募金」に協力		
8月	輸送時の安全性や機密性を一段と高め、専用BOXを用いたセキュリティ輸送サービス「佐川セキュリティパッケージ」全国展開開始 「佐川急便 釜本サッカー学校」開催 「第5回 佐川急便全国電話対応コンクール」開催		
9月	「台湾佐川急便国際股份有限公司」営業開始 【佐川国際経済協会】第16回佐川日中友好車両整備技術研修を開講 第23回佐川急便グループ幹線輸送全国一斉安全パトロール実施 佐川ギャラクシーハイウェイ株式会社設立 佐川ギャラクシーモーターズ株式会社設立 第2回SAGAWAステークホルダー・ダイアログを開催		
10月	「オリンピックフェスティバル2005」に出展 【佐川美術館】金箔のあやなす彩りとロマン「人間国宝 江里佐代子・截金の世界」開催（10月8日～11月23日） 「第37回全国トラックドライバー・コンテスト」内閣総理大臣賞、内閣官房長官賞を獲得。2t・4t・女性部門で優勝 【佐川国際経済協会】佐川急便日中友好事業20周年記念車両整備技術研修生同窓会を開催		
11月	【佐川留学生奨学会】2005年度（第20期）奨学生採用証書授与式・交流会開催 「環境フェスティバル21」に出展 【佐川がん研究助成振興財団】平成17年度「佐川がん研究助成金」、第3回「佐川特別研究助成賞・佐川看護特別研究助成賞」授与式開催		
12月	「平成17年度第44回電話対応（CTI）コンクール全国大会」で総務大臣賞受賞 「京都環境フェスティバル2005」に出展 「第2回エコプロダクツ大賞（エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞）」を受賞 「エコプロダクツ2005」に出展 「平成17年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞		
2006年1月	「第3回佐川急便環境ポスターコンクール」および「第1回佐川急便環境標語コンクール」授与式開催 トリノ冬季五輪日本代表応援イベント「トリノへどどげ、SAGAWAパワーメッセージ！」開催		
2月	「ENEX2006」に出展 「動く営業店」をコンセプトにした特別仕様車両を導入 「第8回グリーン購入大賞（審査員特別賞）」を受賞		
3月	環境に配慮したメール便輸送「佐川グリーンメール」サービス開始 中国卓球スーパーリーグ 広東省女子チーム（福原愛選手所属）へスポンサー協賛で合意		

※2005年度（2005年3月21日～2006年3月20日）における主要な取り組みです。
※上記掲載内容は、実施当時の固有名称で記載しています。

佐川急便 2005年度 各地の取り組み

九州ブロック

子どもたちの安全を願って

知花店では、2003年4月の春の交通安全運動初日から現在に至るまで、毎朝7時30分より8時20分まで近くの横断歩道で交通整理を行っています。交通事故防止、違反撲滅を目標



ただいま横断中です

に従業員一人ひとりの安全意識を高めることを目的として、何かできないかと考えて始めたのがきっかけです。それ以来、雨の日も風の日も1日も休むことなく3年が経過しました。今では近所の方々やお客様、沖縄警察署からも応援や励ましのお言葉を頂くまでになりました。何よりも近くの小学校、幼稚園の子どもたちが毎日元気に通学、通園する姿に私たちが元気をもらっています。

かわいい子どもたちが事故に遭わないようにと願いながら、これからも継続していきます。

四国ブロック

各店でファミリー安全教室開催中

2006年1月22日、「東かがわ店家族のための交通安全教室」



トラックの動きに見入る子どもたち

を開催しました。この催しは、従業員の家族や協力会社の方々とともに今一度「安全」について考えるため、「事故のない職場環境創り推進運動」の一環としてブロック内全店で取り組んでいます。

講話中は緊張していた子どもたちも、トラックを使っでの安全指導では、トラックの動きを注意深く見るなど、家族そろって交通规则を勉強することが出来ました。

中国ブロック

過去最大の消防訓練実施

11月9日、三次店にて過去最大の消防訓練を実施しました。今回実施された消防訓練は工業団地全体の消防訓練であり、三次店が広島県防災ヘリコプターのヘリポートとして使用されました。当日は、消防隊員による着陸地点の確認や入念なチェックが行

われ、今までの訓練にはない緊張感が伝わりました。訓練が開始されると、火災発生現場から負傷者が乗せられた救急車が到着し、負傷者をヘリへ搬送する迅速な作業が行われました。訓練の終了後、ヘリの内部見学や人命救助の基本知識の話を聞かせていただき本当に勉強になる時間でした。



三次店がヘリポートに!

関西ブロック

御輿巡行

7月22日、大阪店に活気あふれる御輿がやってきました。これは地元の氏神である産土(うぶすな)神社の御輿で、自治会の皆様や子どもたちによって万福招来、五穀豊穰、地域社会の隆昌を願う夏大斎行の一環で町内を巡行されています。



繁栄を願って、ワッショイ!

大阪店でも当社の繁栄を願い、夏の暑さを吹き飛ばす勢いで御輿を担がせていただき、地域の皆様との交流が図れたひとときでした。

北陸ブロック

「市民植樹会」に参加

日本海東北自動車道(日東道)を環境に優しい「樹林道路」にするため、「市民の会及びNPO法人森の会」主催による「市民植樹会」が10月16日に開催されました。昨年に引き続き、新潟店従業員と家族総勢100人が参加しました。素晴らしい秋晴れに恵まれ、アジサイやツツジなど約1,000本を植樹し、参加者が泥だらけになりながら、樹木に語りかけるように植えている姿がとても印象的でした。終了後に、「自分で植樹した花や木が大きく育っているか見に来なくては・・・」というような声も聞かれ、地域の豊かな自然を大切にす心の輪を広げていくために、今後も積極的に環境活動に取り組んでいきます。



家族とともに植樹

中京ブロック

静岡店にて「第2回飛脚祭り」開催

9月18日、静岡店にて「第2回飛脚祭り」を開催しました。地域の皆様をお招きし、従業員とその家族を交えての交通安全教室も実施することが出来ました。また、アトラクションは子供たちに大変喜ばれ、係対抗かくし芸大会では、参加者の皆様がおなかを抱えて笑う姿が大変印象的でした。

この「飛脚祭り」は、地域の皆様への感謝の気持ちを伝える機会として、また、従業員とその家族の日ごろの労をねぎらう機会とし



飛脚祭りは大好評でした

て定着しつつあります。参加者は来年も必ず、「第3回飛脚祭り」を開催することを誓いました。

関東ブロック

「オール東京市区町村喫煙マナーキャンペーン」の実施

8月1日、地下鉄「南砂町」駅前、地域周辺の企業、町会、自治会の皆様とともに「オール東京市区町村喫煙マナーキャンペーン」に参加しました。気温がドンドン



地域の皆様とともに参加

上がっていく中、参加者全員一丸となって喫煙マナーの向上を目指し、キャンペーンに取り組みました。「東京って美しい街だね!!」と皆様から言っていただけるように、これからも地域の環境活動へ積極的に参加していきます。



素晴らしい佐川スマイルの持ち主

私たち佐川急便チームは、キャンペーン用ポケットティッシュの配布に合わせて、この暑さを吹き飛ばすくらい素敵な「佐川スマイル」もお配りしました。

東北ブロック

山形店が「山形 花笠祭り」に参加

8月7日、東北の暑い夏を彩る四大祭りの1つ、「山形 花笠祭り」に山形店の54人が参加しました。華やかな衣装に身を包んだ踊り手たちが、山形の県花である紅花をあしらった花笠を手に踊る、とても魅力的な夏祭りです。山形店の従業員も張り切って参加しました。特に沿道から声援が掛かった時など、声援に応えるかのように美しく活気に満ちた踊りを披露し、集まった観客を楽しませて



お揃いのはっぴ姿で参加した山形店従業員

いました。参加者のさわやかで充実した表情が花笠祭り以上に印象的でした。

北海道ブロック

「全道雪中綱引大会」に出場

2006年2月5日、滝川市にて「全道雪中綱引大会」が開催され、ツルツルの雪上で熱い戦いを繰り広げました。今年も例年のごとく「チーム佐川急便滝川店」



力み過ぎ?の選手たち

として参加させていただきました。外国人チームも含めさまざまな猛者たちの中、力の入りすぎた応援に応えるべく、力み過ぎの選手たちは・・・残念ながら優勝を逃してしまいました。しかしながら、ひきやく君を取り囲んだ地元の子どもたちは大騒ぎで、大人気でした。綱引には敗れたものの、ひきやく君の人気と観戦者の視線は一等賞でした。

今後も地域の皆様と一丸となり、楽しい時間を過ごすことのできるイベントに積極的に参加します!

佐川急便フィリピン

地域クリーンアップ作戦実施!

佐川急便フィリピンでは、事業所周辺の清掃作業を毎朝全従業員で行っていますが、今年から地域クリーンアップ作戦と名づけて、事業所周辺200mの範囲の清掃、ごみ拾いをすることに決め、2006年1月16日に第1回クリーンアップ作戦を行いました。フィリピンでは、お国柄か道路にごみが落ちていたり汚れていたりしても、あまり気にしないのですが、当社が清掃を始めたことで、隣の会社の社員の方たちも毎朝掃除をされるようになりました。

こうしたアイデアを従業員たちが自主的に発案し、実行するようになったことで、次は少しでも自分たちで掃除をする喜びの輪を広げていけたらと考えています。当日はあいにくの小雨混じりの天候ではありましたが、全員すがすがしい気持ちで新たな年に挑戦していこうと誓い合いました。



清掃の様子

第三者保証報告書

SGホールディングス株式会社

代表取締役 栗和田 榮一 殿



2006年5月25日

保証業務の対象と目的

私たち、株式会社中央青山サステナビリティ認証機構は、SGホールディングス株式会社(以下、「会社」という。)からの依頼に基づき、「SGホールディングスグループ環境・社会報告書2006」(以下、「同報告書」という。)に関する以下の事項について意見を述べることを目的とし、手続を実施しました。

1. 同報告書に記載された環境・社会情報は、関連する会社所定の手続に従って収集され報告されたものであるか
2. 上記1.の記載情報は、根拠資料に基づくものであるか

同報告書は会社の責任のもとに作成されたものであり、私たちの責任は独立の立場から意見を表明することにあります。

意見表明の根拠

現時点では、環境・社会情報の収集、報告及び保証について一般に認められた国際基準は確立されていません。そのため、私たちは、現在確立されつつある慣行と以下の指針を参考としています。

- 「環境報告書審査基準案」(環境省)
- 「環境報告書保証業務指針(中間報告)」(平成15年12月9日 日本公認会計士協会公表)
- 国際会計士連盟「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」(ISAE3000)

実施した手続の概要

私たちは、本社及び関東支社に関して、以下の手続を実施した上で、意見をまとめています。

1. 本社
 - ・ CSR担当部門責任者へのインタビュー
 - ・ 同報告書の記載情報の収集過程及び集計方法について、同報告書作成担当者へのインタビュー
 - ・ 同報告書の記載情報に関する本社各部門担当者へのインタビュー
 - ・ 関連資料の閲覧及び同報告書の記載情報との照合
 - ・ 同報告書の記載情報及び関連資料に対する分析的

2. 関東支社

- ・ 同報告書の記載情報に関する担当者へのインタビュー
- ・ 関連資料の閲覧及び照合、分析的手続

往査実施サイト

サイト名	所在地	主な機能
佐川急便(株) 本社	京都府	本社機能
関東支社	東京都	関東地区における管轄機能

私たちの意見

私たちは実施した手続の範囲において以下の結論を得ました。

1. 同報告書に記載された環境・社会情報は、会社所定の手続に従って収集・報告されたものです。
2. 上記1.の記載情報は、入手した根拠資料と矛盾しておらず、修正すべき重要な事項は存在しません。

独立性

私たちは公認会計士法、日本公認会計士協会倫理規則、中央青山監査法人及びPricewaterhouseCoopersの独立性のルールを遵守しています。

株式会社中央青山サステナビリティ認証機構

(中央青山監査法人グループ)



CASCert

IA2006-0001

代表取締役社長

細野康弘

取締役副社長

井上壽枝

第三者意見



ジャーナリスト・環境カウンセラー

崎田 裕子氏

地球温暖化はじめ、大気汚染、交通事故など、環境・社会問題への待ったなしの対応が求められる「物流企業」として、「安全 環境 そしてサービス」という統一スローガンを掲げ、真正面から取り組む姿勢を、高く評価いたします。

具体的には、安全運転に関するドライバーの意識・技術向上をめざす「人づくり」の徹底や、環境方針「輸送効率化、低公害車導入、エコドライブ実践」の徹底などの先進性が特筆されます。

ただし、「グリーン物流」への積極的な取り組みは、コスト増加や多方面との連携が必要であり、環境と経済の両立に向けた荷主や社会各層との「環境コミュニケーション」の重要性は益々高まっていると考えます。その点、「ステークホルダー・ダイアログ」開催などの努力を評価いたしますが、今後は、この環境・社会報告書を活用した各地域社会との情報交流など、顔の見える信頼関係づくりにも一層取り組んでいただきたいと考えます。その際、願わくばこの報告書に、CO₂だけでなく安全・環境等の現状に関する多様な数値データが開示されると、より信頼性が増すのではないのでしょうか。

なお、「アジアNo.1総合物流企業をめざす」という経営ビジョンを掲げるにあたり、持続可能なアジア構築に貢献されることを、心から期待します。

編集後記

今回の報告書は、発行主体を佐川急便(株)から、持株会社であるSGホールディングス(株)に移行しております。制作にあたりましては、従来より発行している報告書の姿勢を引き継ぎ、多くのステークホルダーの方々にお読みいただけるよう、解りやすい表現を心がけました。お読みいただいた皆様にそのように感じていただけたら幸いです。

ご報告しましたとおり、当グループは運転記録装置や低公害車の導入などのハード面と、交通安全教室やSGホールディングスグループ環境行動、人材育成のための研修などのソフト面をうまく組み合わせることによって、企業の社会的責任の遂行に取り組んでまいりました。この2、3年は取り組みの成果に対して評価をいただく機会が多くなり、大変光栄に感じております。今後はグループとしての取り組みだけではなく、あらゆるステークホルダーの方々とのつながりをこれまで以上に密にし、お互いの知恵を出し合って持続可能な社会の構築に向けて努力していきたいと考えています。

SGホールディングス(株)として初めての発行となる今回の「環境・社会報告書」は、グループ内で最も事業規模の大きい佐川急便(株)の活動実績が報告の大半となっており、グループ全体の報告書を目指す当社が取り組まなければならない課題が多くあることを改めて認識しました。今後はグループ全体の環境・社会活動のさらなるボトムアップを図りつつ、CSRの観点から横断的に実績数値を把握し、情報開示の拡充に取り組んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、この報告書がステークホルダーの皆様とのコミュニケーションツールとして活かされますよう、皆様からのご意見・ご感想を頂戴し、今後の取り組みへの参考にさせていただきたいと考えております。

SGホールディングス株式会社

CSR環境担当 一同

この報告書に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

〒601-8104 京都市南区上鳥羽角田町68番地

SGホールディングス株式会社

CSR環境担当

TEL 075-671-8600

<http://www.sg-hldgs.co.jp/>

タイトル 環境・社会報告書2006

発行日 2006年6月

次回発行予定 2007年6月

印刷 佐川印刷株式会社

本報告書は上記インターネットホームページでもご覧いただくことができます。



エコレールマーク



古紙の利用100%の印刷物
リサイクルに配慮した製本

03120013



古紙配合率100%再生紙を使用しています



●古紙配合率100%の再生紙を使用しています。
●揮発性有機化合物発生の抑止と紙のリサイクル性に優れた「大豆油インキ」を使用しています。
この印刷物は再生紙を使用し、エコマーク認定を受けています。
印刷内容とエコマークは関係ありません。

この環境・社会報告書は、環境に配慮して制作しています。
不要となった際は回収・リサイクルにご協力ください。

